

令和4年度

男女共同参画に関する  
市民・職員意識調査

報告書概要版

～加茂市全体の結果について～

令和4年9月

加茂市 総務課 男女共同参画係



# 目次

	頁
I 市民アンケート調査概要	1
II 市民アンケート調査結果	2
1 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 職業	3
(4) 婚姻状況	3
(5) 就労状況	4
(6) 子どもの有無	4
(7) 世帯構成	5
2 男女平等について	6
(1) 家庭や結婚生活について	6
(2) 男女の地位の平等について	7
(3) 家庭生活の仕事の分担	8
(4) 女性の社会参加についての考え方	9
3 教育について	10
(1) 希望する子どもの育て方	10
(2) 子どもに受けさせたい教育程度	10
4 男女の職業生活に対する考え方について	11
(1) 職場における男女間の格差	11
(2) 女性が仕事に就くことについての考え	12
(3) 女性が働き続ける上で困難だと思うこと	13
(4) 育児休業や介護休業の取得について	14
(5) 育児休業の取得希望について	14
(6) 育児休業の取得状況について	15
(7) 育児休業を取得しなかった理由	15
(8) 女性が働く環境について	16
5 ワーク・ライフ・バランスについて	17
(1) 希望のワーク・ライフ・バランス	17
(2) 現実の生活状況	17
(3) ワーク・ライフ・バランスの満足度	18
(4) 満足していない理由	18
6 男女の人権について	19
(1) 夫婦間の暴力	19
(2) 配偶者などから（への）暴力行為（DV）を受けた（行った）経験の有無	21

(3) 配偶者などから（への）暴力（DV）に関する相談先	22
<b>7 防災・災害復興対策について</b>	<b>23</b>
(1) 防災・災害復興対策に関する考え方	23
<b>8 男女共同参画の推進に関することについて</b>	<b>24</b>
(1) 法律や制度の認知度	24
(2) 男女共同参画社会推進のために、今後市が力を入れていくべきこと	25
<b>Ⅲ 職員アンケート調査概要</b>	<b>26</b>
<b>Ⅳ 職員アンケート調査結果</b>	<b>27</b>
<b>1 回答者の属性</b>	<b>27</b>
(1) 性別	27
(2) 年齢	27
(3) 職位	28
(4) 婚姻状況	28
(5) 就労状況	29
(6) 子どもの有無	29
(7) 世帯構成	30
<b>2 男女平等について</b>	<b>31</b>
(1) 男女の地位の平等について	31
(2) 男女が社会のあらゆる分野に参画していくために最も重要なこと	32
<b>3 男女の職業生活に対する考え方について</b>	<b>33</b>
(1) 職場における男女間の格差	33
(2) 育児休業の取得について	35
(3) 育児休業を利用する上で支障となること	35
(4) 現状についての考え方	36
(5) 女性の職域拡大・登用をすすめるために重要なこと	37
(6) 管理職への昇格・昇任について	37
(7) 管理職への昇格・昇任を希望する理由	38
(8) 管理職への昇格・昇任を希望しない理由	38
<b>4 ワーク・ライフ・バランスについて</b>	<b>39</b>
(1) ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと	39
<b>5 人権について</b>	<b>40</b>
(1) 職場でハラスメントを受けた経験の有無	40
(2) ハラスメントを受けた時の対処法	40
<b>6 男女共同参画に関する施策などについて</b>	<b>41</b>
(1) 法律や制度の認知度	41

# I 市民アンケート調査概要

## 1 調査方法

- (1) 調査地域 加茂市全域
- (2) 調査対象 加茂市在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000 人
- (4) 標本抽出法 住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送により調査票・返信用封筒を配布し、郵送により回収
- (6) 調査期間 令和 4 年夏期 (8 月～9 月)

## 2 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 男女平等について
- (3) 子育てや教育について
- (4) 男女の職業生活に対する考え方について
- (5) ワーク・ライフ・バランスについて
- (6) 男女の人権について
- (7) 防災・災害復興対策について
- (8) 男女共同参画社会の推進に関することについて

## 3 回収結果

- (1) 有効回収票 827 票 (男性 362 票、女性 455 票、  
男性、女性のどちらでもない 1 票、性別不明 9 票)
- (2) 有効回収率 41.4%

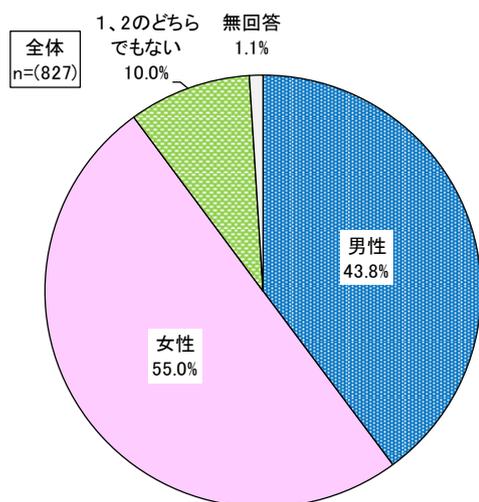
### ◇ 本報告書の利用にあたっての注意点

- 1. 本文及び図表中の回答者の割合は、百分比 (%) で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入してある。そのため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2. 図表中の「n (number of cases の略)」とは、回答者総数 (該当者質問では該当者数) のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 3. 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。
- 4. 回答数が極端に少ない (概ねに 10 以下の) 属性については分析対象外とした。

## Ⅱ 市民アンケート調査結果

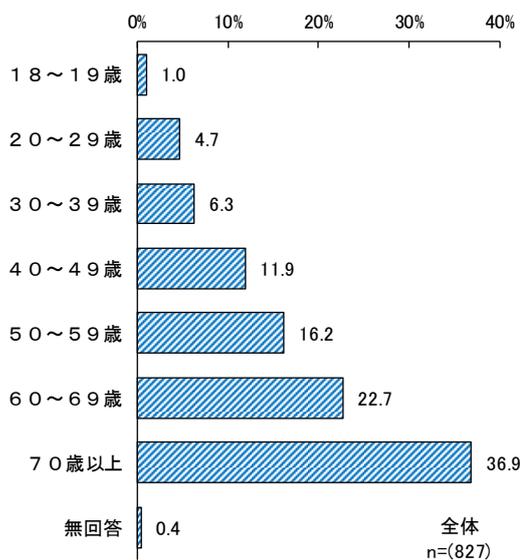
### 1 回答者の属性

(1) あなたの性別をお知らせください。(○は1つだけ)



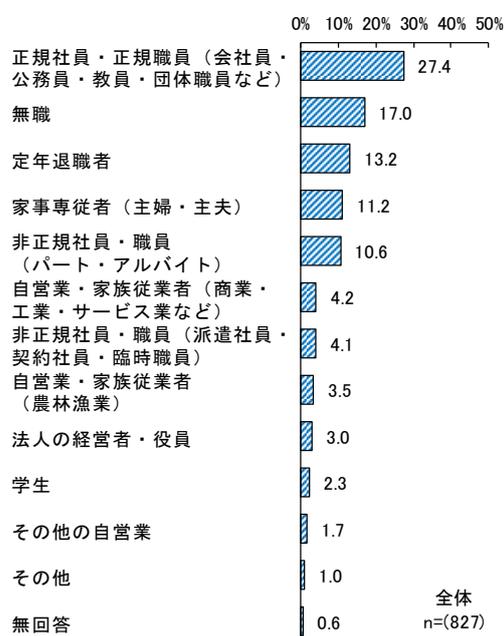
性 別		
回答者総数	100.0%	(827人)
男性	43.8%	(362人)
女性	55.0%	(455人)
その他	0.1%	(1人)
無回答	1.1%	(9人)

(2) あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)



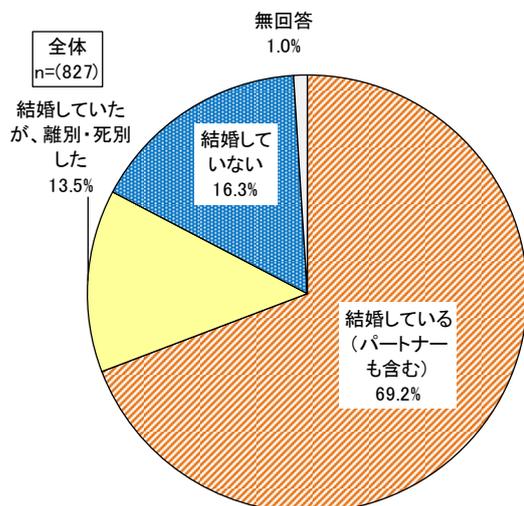
年 齢 別		
回答者総数	100.0%	(827人)
18~19歳	1.0%	(8人)
20~29歳	4.7%	(39人)
30~39歳	6.3%	(52人)
40~49歳	11.9%	(98人)
50~59歳	16.2%	(134人)
60~69歳	22.7%	(188人)
70歳以上	36.9%	(305人)
無回答	0.4%	(3人)

(3) あなたのご職業は何ですか。(〇は1つだけ)



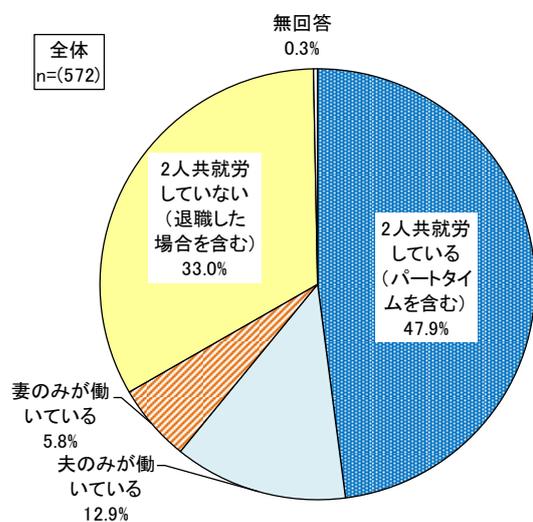
職業別	
回答者総数	100.0% (827人)
正規社員・正規職員 (会社員・公務員・教員・団体職員など)	27.4% (227人)
非正規社員・職員 (派遣社員・契約社員・臨時職員)	4.1% (34人)
非正規社員・職員 (パート・アルバイト)	10.6% (88人)
法人の経営者・役員	3.0% (25人)
自営業・家族従業者 (農林漁業)	3.5% (29人)
自営業・家族従業者 (商業・工業・サービス業など)	4.2% (35人)
その他の自営業	1.7% (14人)
家事専従者 (主婦・主夫)	11.2% (93人)
学生	2.3% (19人)
無職	17.0% (141人)
定年退職者	13.2% (109人)
その他	1.0% (8人)
無回答	0.6% (5人)

(4) あなたは現在結婚されていますか。(〇は1つだけ)



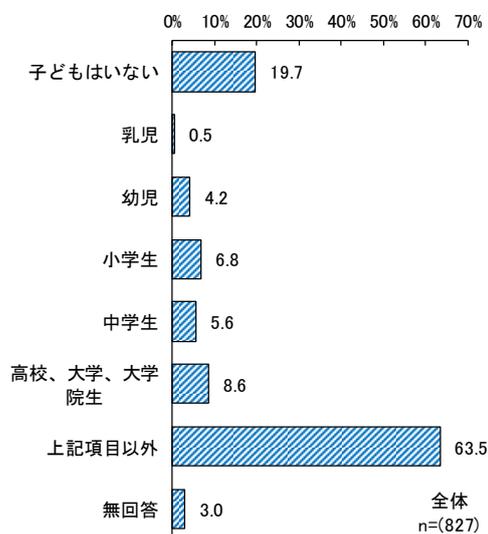
婚姻状況	
回答者総数	100.0% (827人)
結婚している (パートナーも含む)	69.2% (572人)
結婚していたが、離別・死別した	13.5% (112人)
結婚していない	16.3% (135人)
無回答	1.0% (8人)

(5) [(4) で「1. 結婚している (パートナーも含む)」と答え方にお伺いします]  
あなた方ご夫婦の就労状況は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)



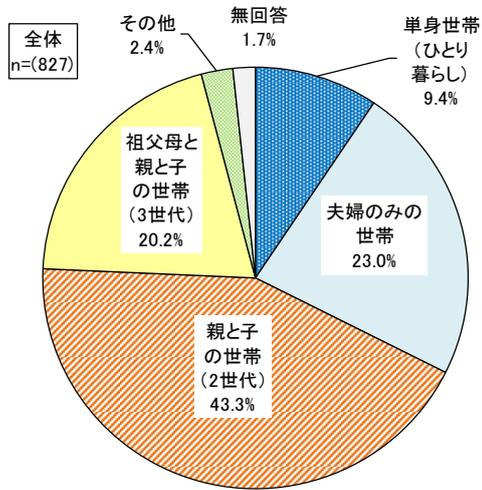
就労状況		
回答者総数	100.0%	(572人)
2人共就労している (パートタイムを含む)	47.9%	(274人)
夫のみが働いている	12.9%	(74人)
妻のみが働いている	5.8%	(33人)
2人共就労していない (退職した場合を含む)	33.0%	(189人)
無回答	0.3%	(2人)

(6) あなたにはお子さんはいますか。(○はあてはまるものすべて)



子どもの有無		
回答者総数	100.0%	(827人)
子どもはいない	19.7%	(163人)
乳児 (1歳未満)	0.5%	(4人)
幼児 (1歳以上～小学校就学前)	4.2%	(35人)
小学生	6.8%	(56人)
中学生	5.6%	(46人)
高校、大学、大学院生 (高専、短大、専門学校生を含む)	8.6%	(71人)
上記項目以外 (学校は卒業した、既に働いている、結婚した等)	63.5%	(525人)
無回答	3.0%	(25人)

(7) あなたのご家庭の構成（同居の家族のみ）は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

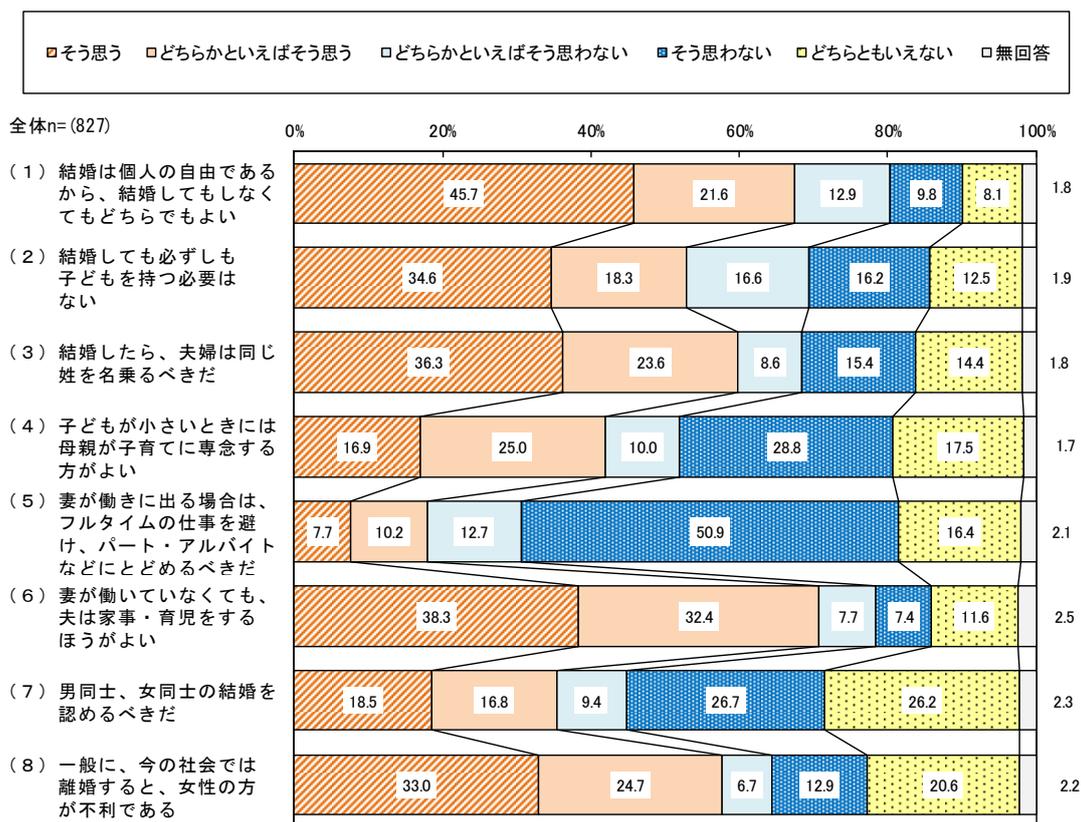


回答者総数	100.0%	(827人)
単身世帯(ひとり暮らし)	9.4%	(78人)
夫婦のみの世帯	23.0%	(190人)
親と子の世帯(2世代)	43.3%	(358人)
祖父母と親と子の世帯(3世代)	20.2%	(167人)
その他	2.4%	(20人)
無回答	1.7%	(14人)

## 2 男女平等について

### (1) 家庭や結婚生活について

問1 結婚や家庭生活などに関する(1)～(8)の考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれでしょうか。それぞれ1つずつお選びください。



#### <全体結果>

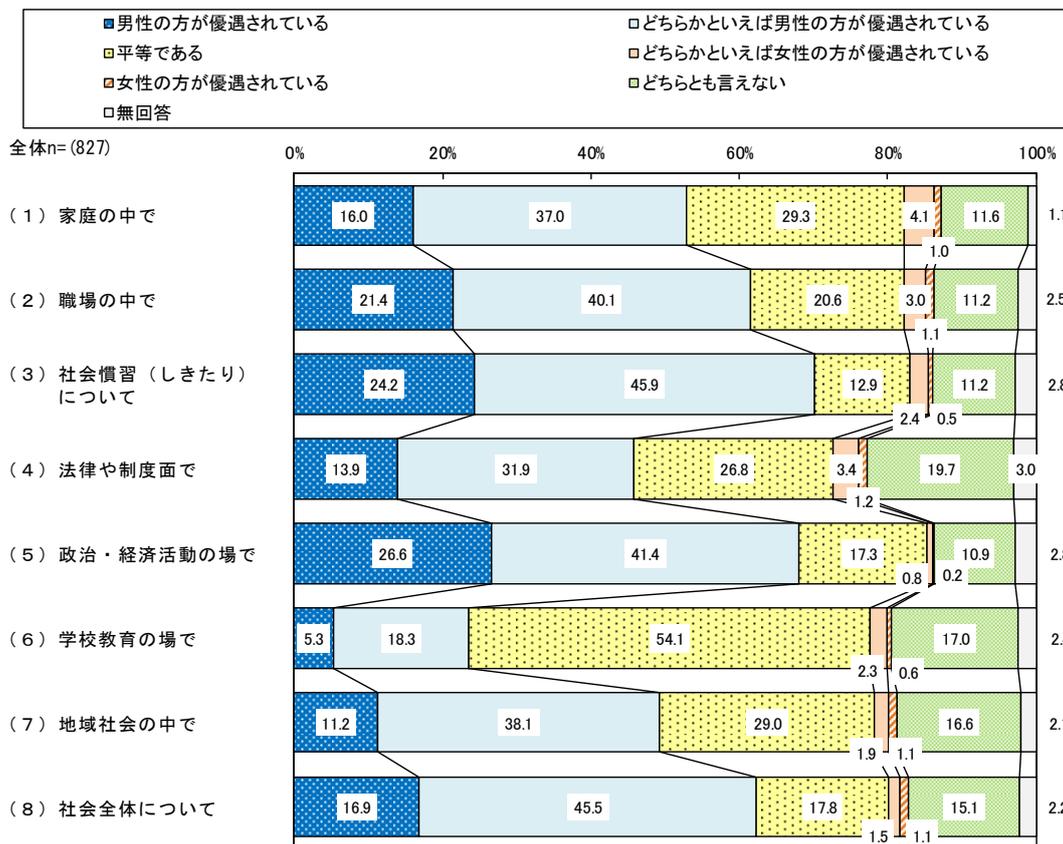
家庭や結婚生活について8つの項目で調査した。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』計の割合をみると、【(6) 妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするほうがよい】が最も高く、約7割となっている。以下、【(1) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】が7割弱、【(3) 結婚したら、夫婦は同じ姓を名乗るべきだ】、【(8) 一般に、今の社会では離婚すると、女性の方が不利である】、【(2) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】が5割台、【(4) 子どもが小さいときには母親が子育てに専念する方がよい】が4割台、【(7) 男同士、女同士の結婚を認めるべきだ】が3割台、【(5) 妻が働きに出る場合は、フルタイムの仕事を避け、パート・アルバイトなどにとどめるべきだ】が2割弱となっている。

【(5) 妻が働きに出る場合は、フルタイムの仕事を避け、パート・アルバイトなどにとどめるべきだ】と【(7) 男同士、女同士の結婚を認めるべきだ】の2項目は、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』計の割合が、『思う』計の割合を上回っている。

## (2) 男女の地位の平等について

問2 あなたは、(1)～(8)のような場面における男女の地位の平等について、どのように思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



### <全体結果>

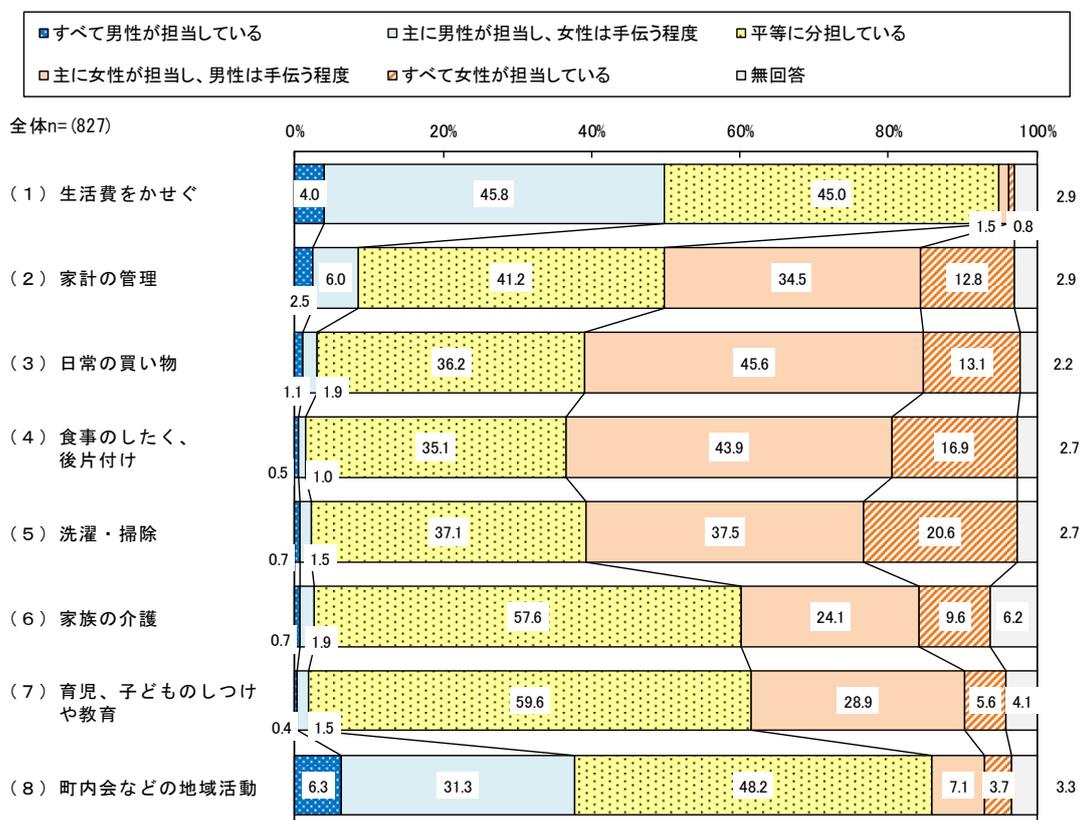
男女の地位の平等感について8つの項目で調査した。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』計の割合は、【(3) 社会慣習（しきたり）について】が高く、約7割となっている。以下、【(5) 政治・経済活動の場で】、【(8) 社会全体について】と【(2) 職場の中で】が6割台で続く。

一方、「平等である」と感じている項目は、【(6) 学校教育の場で】が5割強で最も高く、『男性が優遇されている』計の割合を大きく上回っている。

### (3) 家庭生活の仕事の分担

問3 家庭生活における(1)～(8)の様々な役割分担について、男女のどちらが担うのがよいと思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



#### <全体結果>

家庭生活における様々な役割分担について8つの項目で調査した。

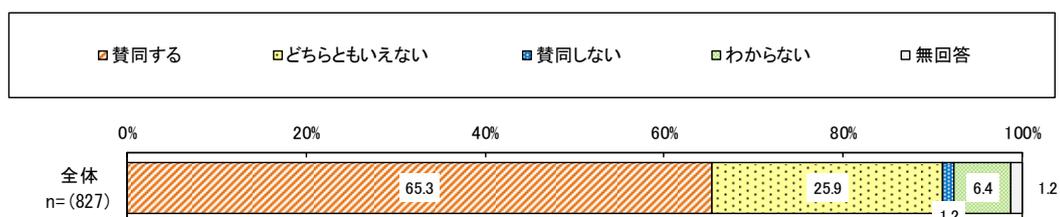
「すべて男性が担当している」と「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」を合わせた『男性が担当』計の割合は、【(1) 生活費をかせぐ】が最も高く、約5割となっている。【(8) 町内会などの地域活動】が4割弱で続いている。

「すべて女性が担当している」と「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担当』計の割合は、【(4) 食事のしたく、後片付け】が最も高く、約6割となっている。【(3) 日常の買い物】と【(5) 洗濯・掃除】が6割弱、【(2) 家計の管理】が5割弱で続いている。

「平等に分担している」の割合は、【(7) 育児、子どものしつけや教育】と【(6) 家族の介護】が高く、6割弱となっている。次いで【(8) 町内会などの地域活動】、【(1) 生活費をかせぐ】、【(2) 家計の管理】が4割台となっている。

#### (4) 女性の社会参加についての考え方

問4 「これからの社会では、女性の社会参加を進めていく必要がある」という考え方がありますが、あなたは、この考え方について、賛同しますか？  
1つだけお選びください。



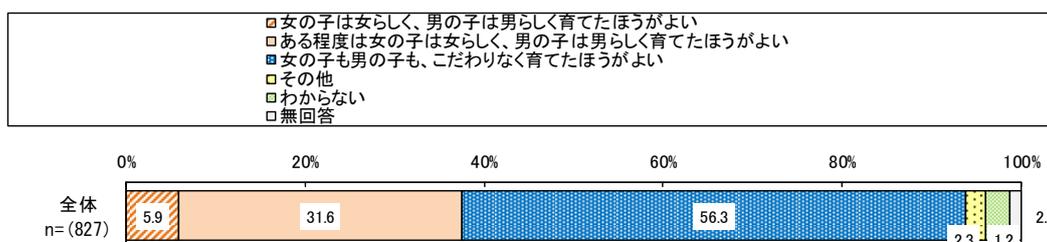
#### <全体結果>

女性の社会参加についての考え方は、「賛成する」が6割強で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が2割強で続いている。

### 3 子育てや教育について

#### (1) 希望する子どもの育て方

問5 あなたは、子どもをどのように育てたほうがよいと思いますか。子どもがいない方も、仮にいたと想定してお答えください。1つだけお選びください。

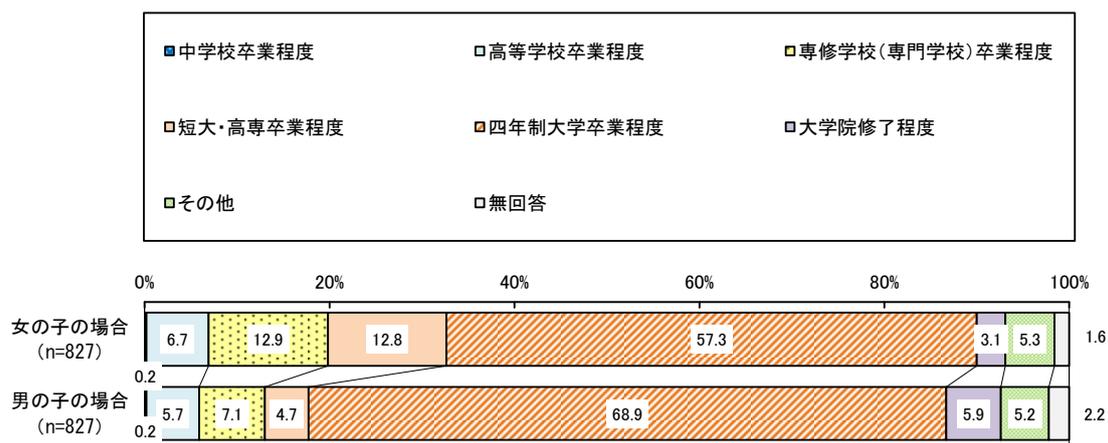


#### <全体結果>

希望する子どもの育て方は、「女の子も男の子も、こだわりなく育てたほうがよい」が5割強で最も高く、次いで「ある程度は女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」が3割強で続いている。

#### (2) 子どもに受けさせたい教育程度

問6 あなたが、子どもに受けさせたい（受けさせたかった）教育はどの程度までですか。子どもがいない方も仮にいたと仮定してお答えください。



#### <全体結果>

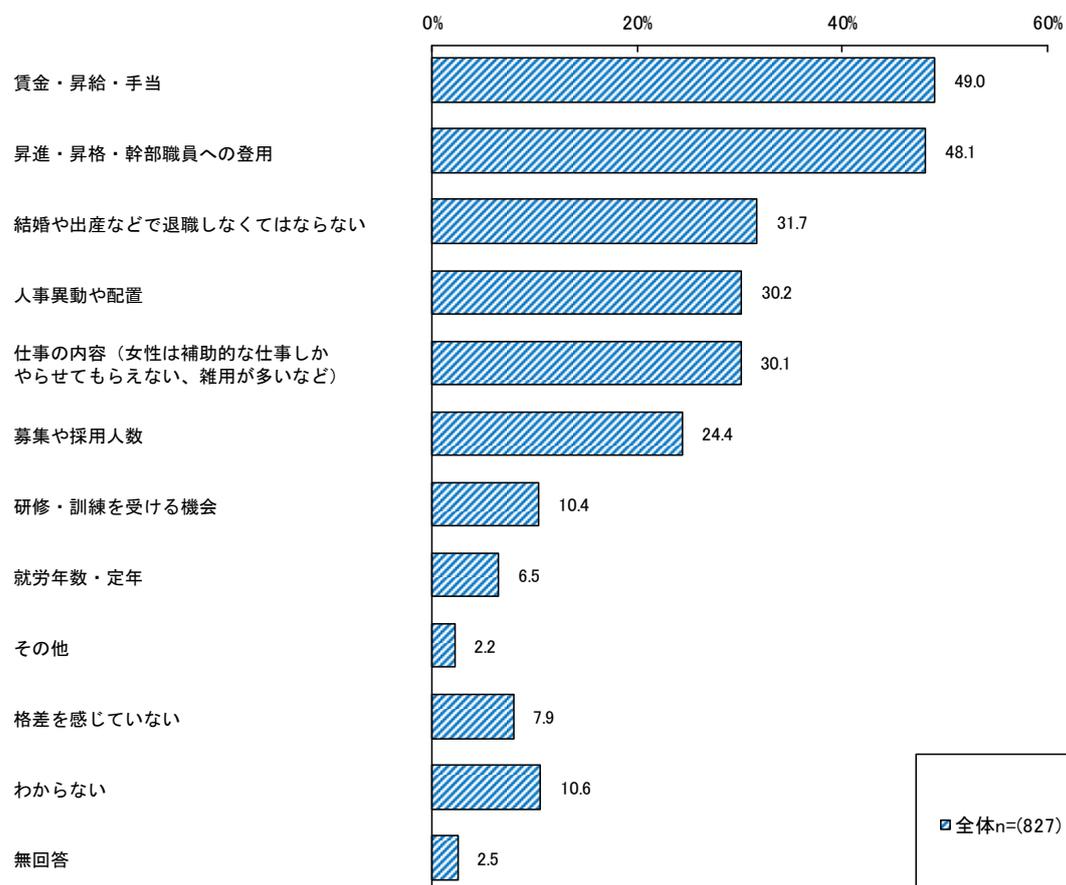
女の子の場合も、男の子の場合も、「四年制大学卒業程度」の回答者が最も多い。

「専修学校（専門学校）卒業程度」と「短大・高専卒業程度」の割合は、女の子の場合が高く、「四年制大学卒業程度」の割合は、男の子の場合が女の子の場合を大きく上回っている。

## 4 男女の職業生活に対する考え方について

### (1) 職場における男女間の格差

問7 女性の職場環境について、仕事の内容や待遇面で、性別による格差を感じていることはどのようなことですか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。



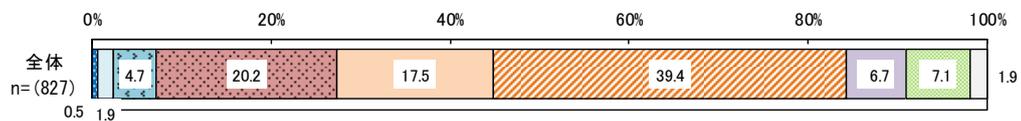
#### <全体結果>

職場において男女間の格差を感じることは、「賃金・昇給・手当」と「昇進・昇格・幹部職員への登用」が多く、5割弱となっている。以下、「結婚や出産などで退職しなくてはならない」、「人事異動や配置」、「仕事の内容（女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない、雑用が多いなど）」が3割台、「募集や採用人数」が2割強となっている。

## (2) 女性の就労と結婚、子育てとの関わりについての考え

問8 あなたは、女性の就労と結婚、子育てとの関わりについて、どのように思いますか。  
1つだけお選びください。

- 仕事に就かずに結婚し、家庭で配偶者・パートナーや子どものことに専念する
- 結婚までは仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念する
- 子どもができるまで仕事に就き、子どもができたなら家事や子育てに専念する
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事続ける
- 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事続ける
- 結婚、出産に関わらず、仕事続ける
- その他
- わからない
- 無回答

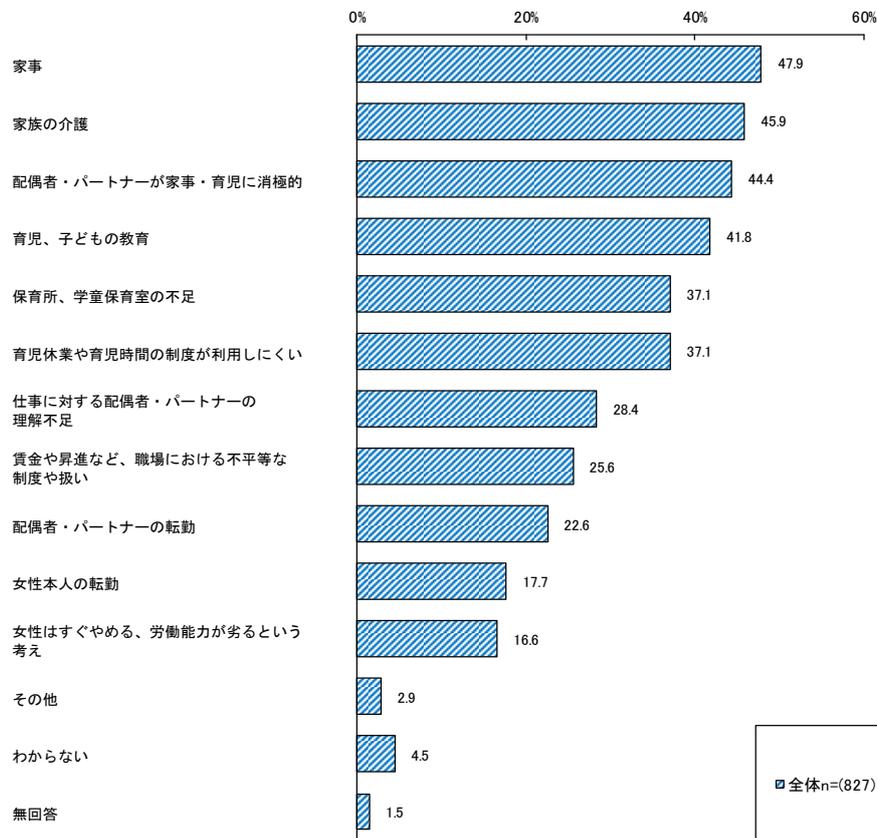


### <全体結果>

女性の就労と結婚、子育てとの関わりについての考えは、「結婚、出産に関わらず、仕事続ける」が最も高く、約4割になっている。次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事続ける」が約2割、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事続ける」が2割弱となっている。

### (3) 女性が働き続ける上で困難だと思うこと

問9 あなたは、女性が働き続けるためには、どのような困難があると思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。



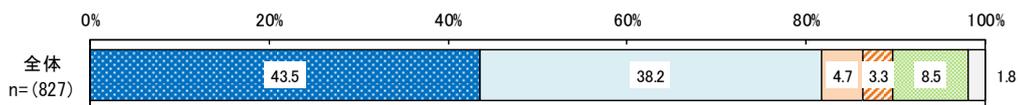
#### <全体結果>

女性が働き続ける上で困難だと思うことは、「家事」が5割弱で最も高く、次いで「家族の介護」、「配偶者・パートナーが家事・育児に消極的」、「育児、子どもの教育」が4割台、「保育所、学童保育室の不足」、「育児休業や育児時間の制度が利用しにくい」が3割台で続いている。

#### (4) 育児休業や介護休業の取得について

問 10 あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか。  
1つだけお選びください。

- 積極的に取得すべきである
- どちらかといえば取得すべきである
- どちらかといえば取得すべきでない
- 取得しないほうがよい
- わからない
- 無回答



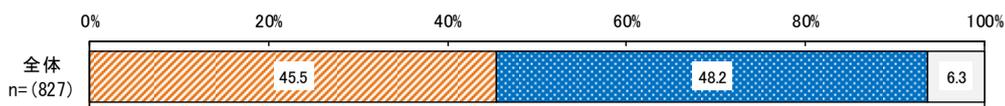
#### <全体結果>

男性が育児休業や介護休業を取得することについては、「積極的に取得すべきである」が4割強で最も多く、次いで「どちらかといえば取得すべきである」が4割弱となっている。

#### (5) 育児休業の取得希望について

問 11 あなたは、育児休業を取得したいと思ったことはありますか。

- ある
- ない
- 無回答



#### <全体結果>

育児休業の取得希望については、「ある」の割合と、「ない」の割合が拮抗している。

## (6) 育児休業の取得状況

問 12 [問 11 で「1. ある」と答えた方にお伺いします]  
実際に育児休業を取得しましたか。

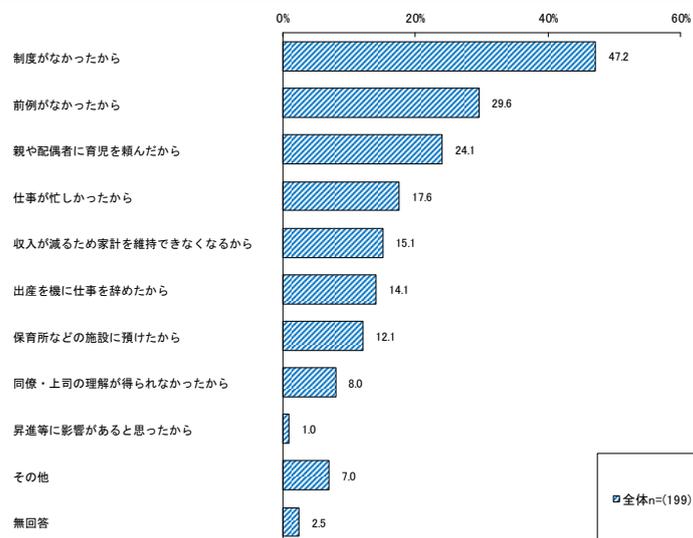


### <全体結果>

実際に育児休業を「取得した」割合は約 2 割にとどまり、一方、「取得しなかった」の割合は、約半数を占めている。また、「取得する機会がまだない」の割合は、2 割強となっている。

## (7) 育児休業を取得しなかった理由

問 13 [問 12 で「2. 取得しなかった」と答えた方にお伺いします]  
次の中から育児休業を取得しなかった理由を 3 つまでお選びください。



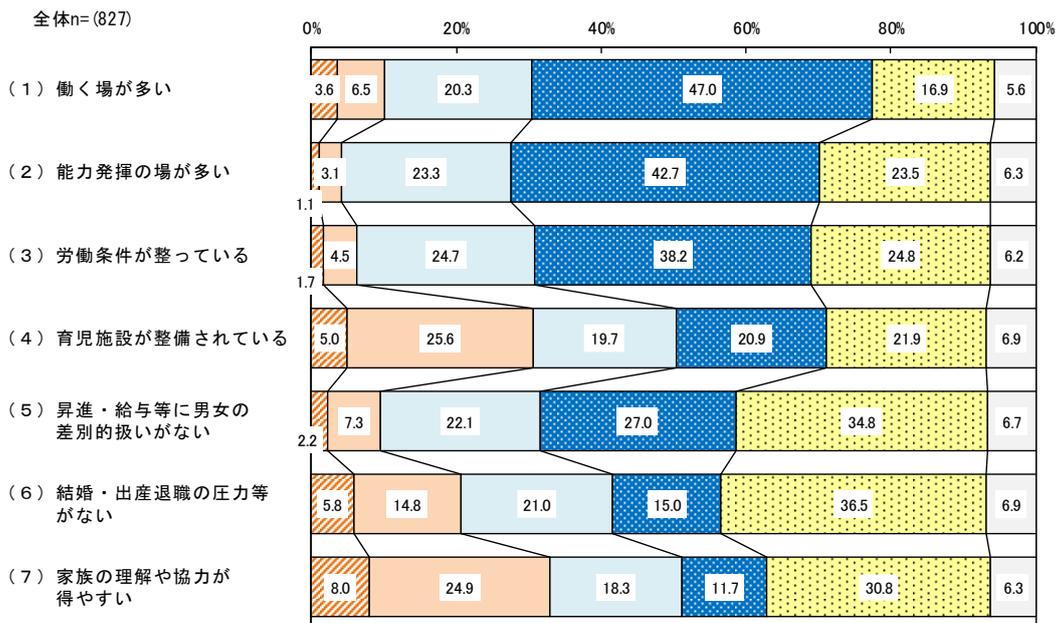
### <全体結果>

育児休業を取得しなかった理由は、「制度がなかったから」の割合が最も高く、5 割弱となっている。次いで、「前例がなかったから」が約 3 割、「親や配偶者に育児を頼んだから」が 2 割台、「仕事が忙しかったから」、「収入が減るため家計を維持できなくなるから」、「出産を機に仕事を辞めたから」、「保育所などの施設に預けたから」が 1 割台などとなっている。

## (8) 女性が働く環境について

問 14 あなたは、加茂市を全般的にみて、(1)～(7)の女性が働く環境についてどう思いますか。それぞれ1つずつお選びください。

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ どちらともいえない □ 無回答



### <全体結果>

女性が働く環境について7つの項目で調査した。

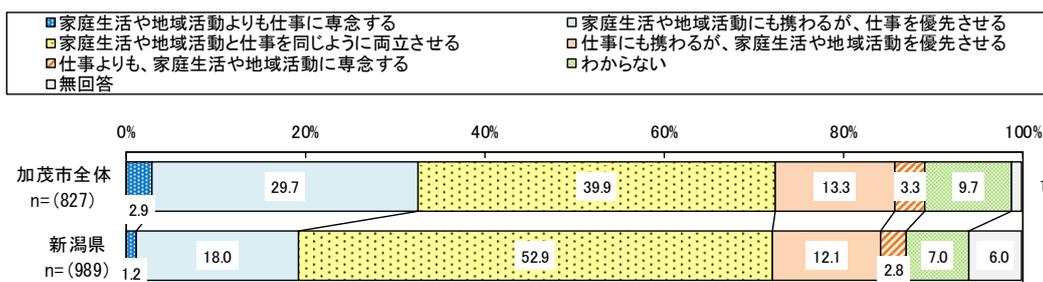
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』計の割合をみると、【(7) 家族の理解や協力が得やすい】と【(4) 育児施設が整備されている】が高く、3割を超えている。次いで【(6) 結婚・出産退職の圧力等がない】が約2割で続いている。

「そう思わない」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思わない』計の割合をみると、【(1) 働く場が多い】と【(2) 能力発揮の場が多い】と【(3) 労働条件が整っている】が6割以上で高くなっている。

## 5 ワーク・ライフ・バランスについて

### (1) 希望のワーク・ライフ・バランス

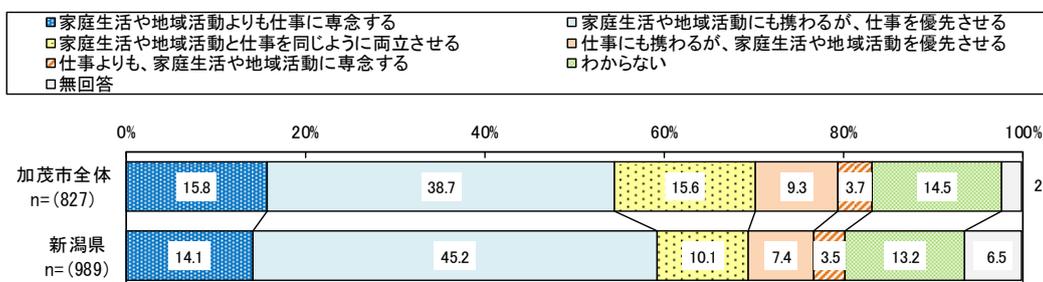
問 15 仕事と家庭生活や地域活動のバランスについて、あなたの希望と現実にもっと近いものをそれぞれ1つずつお選びください。



#### <全体結果>

希望のワーク・ライフ・バランスとしては、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が最も高く、約4割となっている。次いで「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」が約3割となっている。

### (2) 現実の生活状況

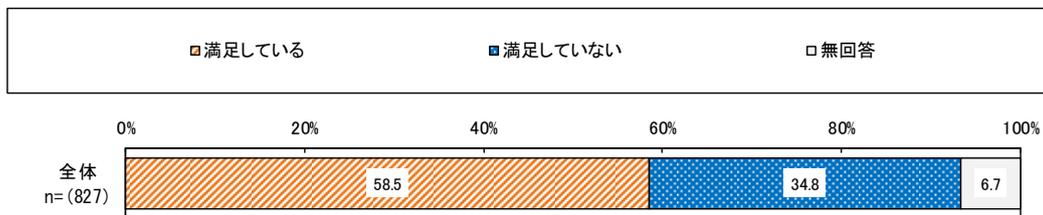


#### <全体結果>

現実の生活状況としては、「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させる」の割合が最も高く、4割弱となっている。次いで「家庭生活や地域活動よりも仕事に専念する」、「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる」が1割台で続いている。

### (3) ワーク・ライフ・バランスの満足度

問 16 あなたは、自分のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活のバランス）について満足していますか。

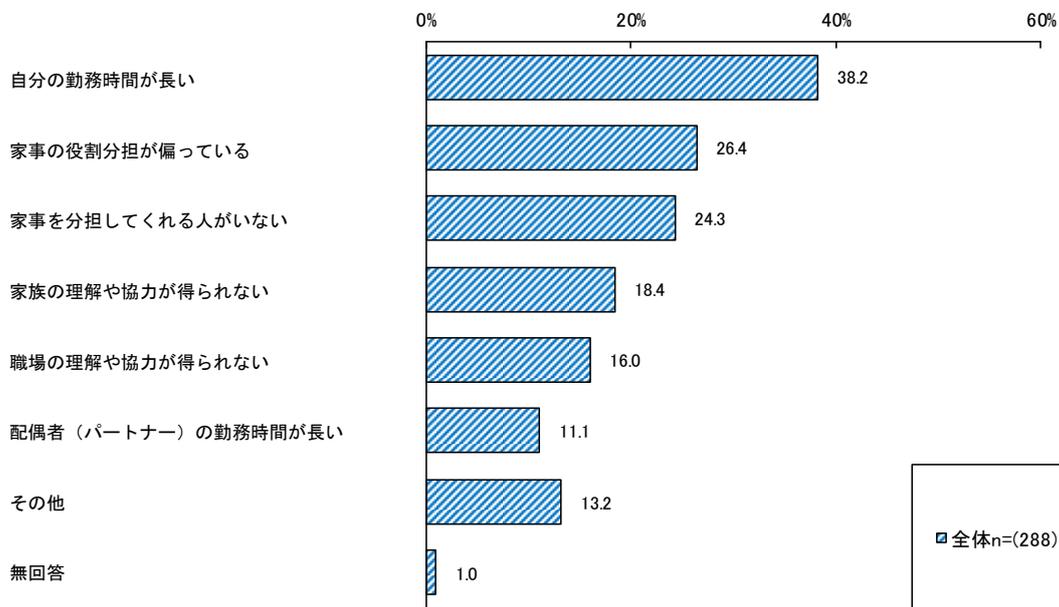


#### <全体結果>

ワーク・ライフ・バランスに「満足している」の割合は約6割を占め、「満足していない」の割合を大きく上回っている。

### (4) 満足していない理由

問 17 [問 16 で「2. 満足していない」と答えた方にお伺いします]  
その理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。



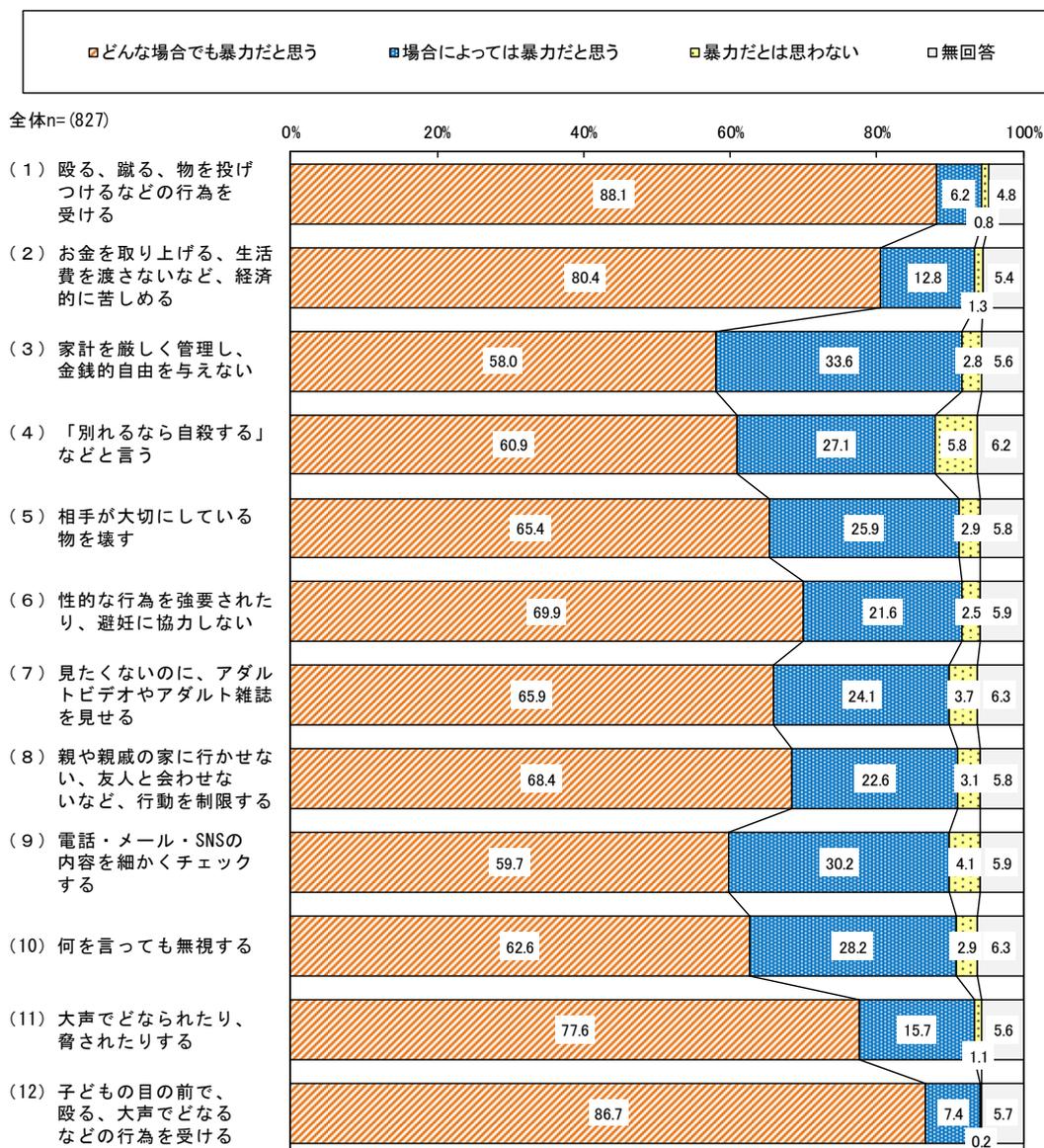
#### <全体結果>

満足していない理由は、「自分の勤務時間が長い」の割合が最も高く、4割弱となっている。次いで、「家事の役割分担が偏っている」、「家事を分担してくれる人がいない」の割合が2割台などとなっている。

## 6 男女の人権について

### (1) 夫婦間の暴力

問 18 あなたは、次の (1) ~ (12) のようなことが、配偶者・パートナーに対して行われた場合、それを暴力だと思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



#### <全体結果>

##### 【身体的暴力】

夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思うかどうかについて、【殴る、蹴る、物を投げつけるなどの行為を受ける】が9割弱、身体的に危害を加えることや危害を加える恐れがあることは、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い。

### 【経済的暴力】

【お金を取り上げる、生活費を渡さないなど、経済的に苦しめる】が約8割、【家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない】が6割弱、経済的に生活の安全・安心を脅かすことは、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い。

### 【精神的暴力】

【子どもの目の前で、殴る、大声でどなるなどの行為を受ける】が9割弱、【大声でどなられたり、脅されたりする】が7割強、【相手が大切にしている物を壊す】と【何を言っても無視する】が6割強、【「別れるなら自殺する」などと言う】が約6割、言動や態度で精神的に相手を傷つけることも暴力と思っているが、子どもも含め、相手が大切にしている物を侵害することを、より暴力だと思う割合が高くなっている。

### 【社会的暴力】

【親や親戚の家に行かせない、友人と会わせないなど、行動を制限する】が7割弱、【電話・メール・SNSの内容を細かくチェックする】が約6割、社会生活をする上での人間関係や行動を制限することは、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い。

### 【性的暴力】

【性的な行為を強要されたり、避妊に協力しない】が約7割、【見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せる】が6割強、性的な強制、いやがらせは、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い。

## (2) 配偶者などから（への）暴力行為（DV）を受けた（行った）経験の有無

問 19 配偶者やパートナーなどから受ける暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）といいます。あなたは、配偶者やパートナーなどから、精神的・身体的・経済的・性的暴力のいずれかでも振るわれたり、振るったりした経験がありますか。  
次の中から1つだけお選びください。

- ※身体的暴力：「殴る」「蹴る」「物を投げつける」など
- 精神的暴力：「脅す」「長時間無視する」「人格を否定する」「行動を監視する」など
- 経済的暴力：「生活費を渡さない」「働くことを妨害する」など
- 性的暴力：「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「避妊に協力しない」など

- 精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことがある
- 精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことも、振るったこともある
- 精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るったことがある
- 振るわれたり、振るったりした経験はない
- 無回答

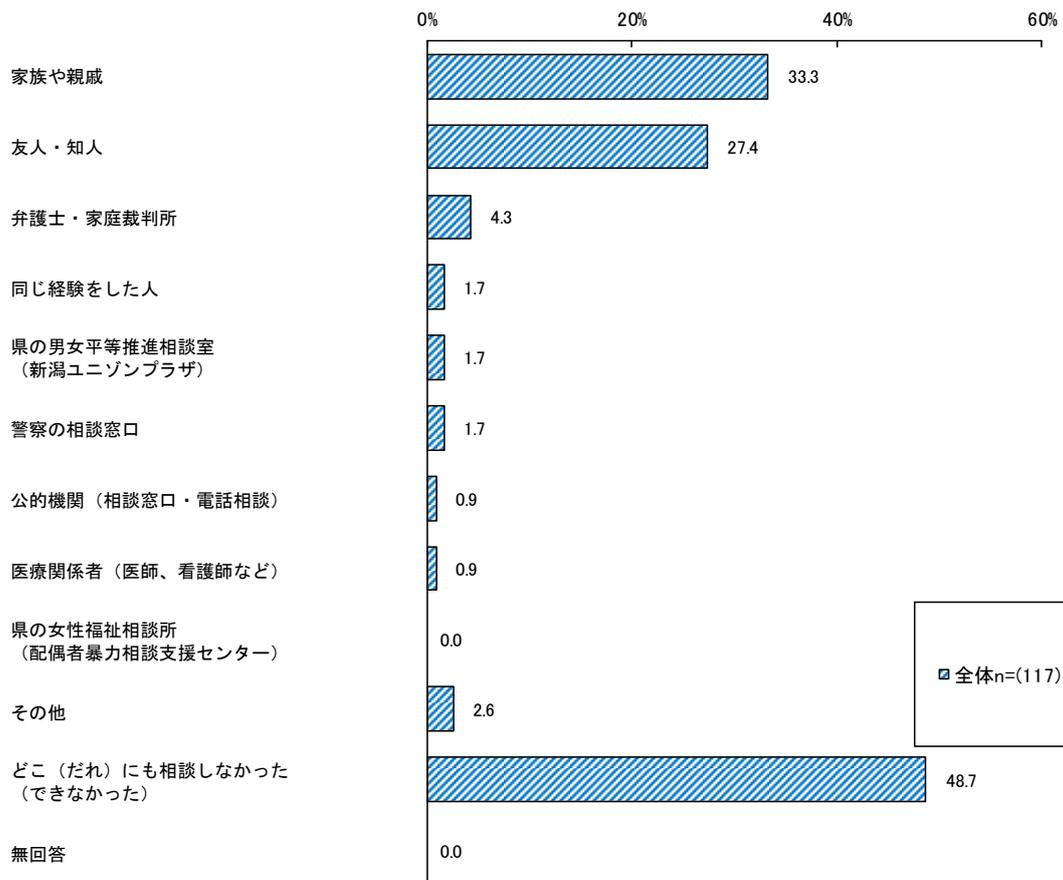


### <全体結果>

配偶者などから精神的・身体的・経済的・性的暴力を、「振るわれたり、振るったりした経験はない」の割合が最も高く、7割強を占めている。「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことがある」が1割強、「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことも、振るったこともある」、「精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るったことがある」が1割未満となっている。

### (3) 配偶者などからの暴力（DV）に関する相談先

問 20 [問 19 で「1. 精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことがある」  
「2. 精神的・身体的・経済的・性的暴力を振るわれたことも、振るったこともある」とお答えになった方にお伺いします]  
あなたはこのような行為を受けていることを、どこか（誰か）に相談しましたか。  
次の中から該当するものすべてお選びください



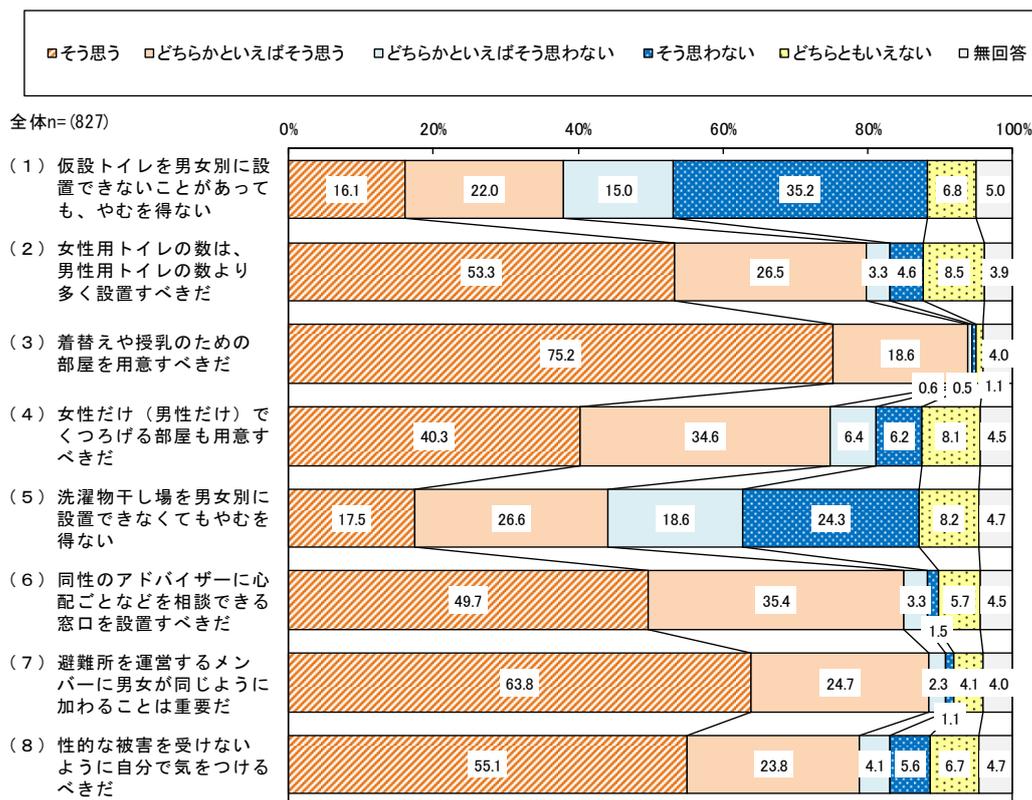
#### <全体結果>

「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した人が最も多く、5割弱となっている。相談先としては「家族や親戚」が3割強、「友人・知人」が3割弱となっている。

## 7 防災・災害復興対策について

### (1) 防災・災害復興対策に関する考え方

問 21 災害などの緊急時における避難所に関する、次のような意見や考え方をあなたは  
どう思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



#### <全体結果>

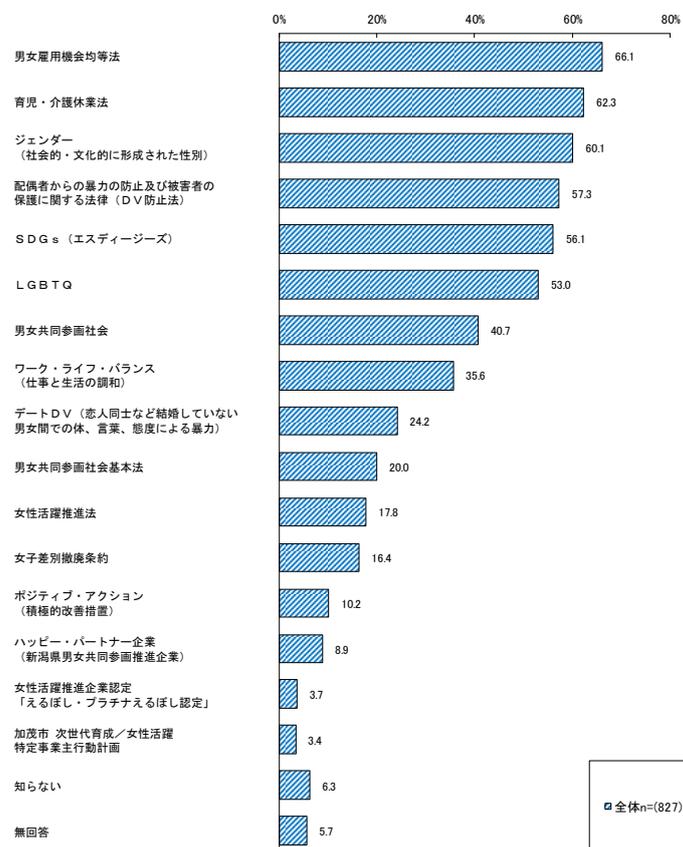
防災・災害復興対策に関する考え方について8つの項目で調査した。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』計の割合をみると、【(3) 着替えや授乳のための部屋を用意すべきだ】が最も高く、9割強となっている。以下、【(7) 避難所を運営するメンバーに男女が同じように加わることは重要だ】、【(6) 同性のアドバイザーに心配ごとなどを相談できる窓口を設置すべきだ】が8割台、【(2) 女性用トイレの数は、男性用トイレの数より多く設置すべきだ】、【(8) 性的な被害を受けないように自分で気をつけるべきだ】、【(4) 女性だけ(男性だけ)でくつろげる部屋を用意すべきだ】が7割台、【(5) 洗濯物干し場を男女別に設置できなくてもやむを得ない】が4割台、【(1) 仮設トイレを男女別に設置できないことがあっても、やむを得ない】が3割台で続いている。

## 8 男女共同参画社会の推進に関することについて

### (1) 法律や制度の認知度

問 22 あなたは、次に挙げる法律や制度の名称などについてご存知ですか。



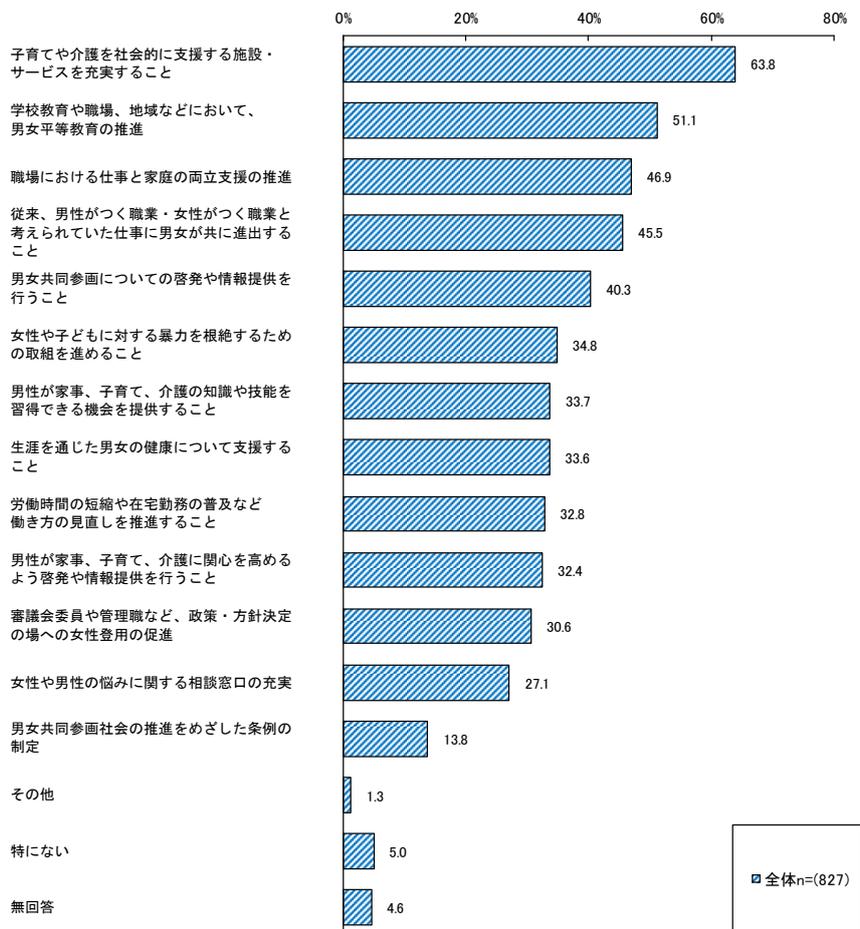
#### <全体結果>

法律や制度の認知度について16項目で調査した。

知っているでは、「男女雇用機会均等法」が6割強で最も高く、次いで「育児・介護休業法」、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」の割合が6割台、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」、「SDGs（エスディージーズ）」、「LGBTQ」が5割台、「男女共同参画社会」が4割台、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が3割台となっている。

## (2) 男女共同参画社会推進のために、今後市が力を入れていくべきこと

問 23 あなたは、男女が互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にとらわれず、それぞれが個性や能力を発揮できる「男女共同参画社会」を推進していくために、加茂市は、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



### <全体結果>

男女共同参画社会を推進していくために、加茂市は「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること」に、最も力を入れてほしいと考える人が多く、6割強となっている。次いで、「学校教育や職場、地域などにおいて、男女平等教育の推進」が5割台、「職場における仕事と家庭の両立支援の推進」、「従来、男性がつく職業・女性がつく職業と考えられていた仕事に男女が共に進出すること」、「男女共同参画についての啓発や情報提供を行うこと」が4割台、「女性や子どもに対する暴力を根絶するための取組を進めること」、「男性が家事、子育て、介護の知識や技能を習得できる機会を提供すること」、「生涯を通じた男女の健康について支援すること」、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを推進すること」、「男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」、「審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場への女性登用の促進」が3割台などとなっている。

## Ⅲ 職員アンケート調査概要

### 1 調査方法

- (1) 調査対象 加茂市職員
- (2) 調査方法 直接配布・回収
- (6) 調査期間 令和4年夏期（8月）

### 2 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 男女共同参画などについて
- (3) 男女の職業生活に対する考え方について
- (4) ワーク・ライフ・バランスについて
- (5) 人権について
- (6) 男女共同参画に関する施策などについて

### 3 回収結果

- (1) 有効回収票 250 票（男性 116 票、女性 134 票）
- (2) 有効回収率 68.7%

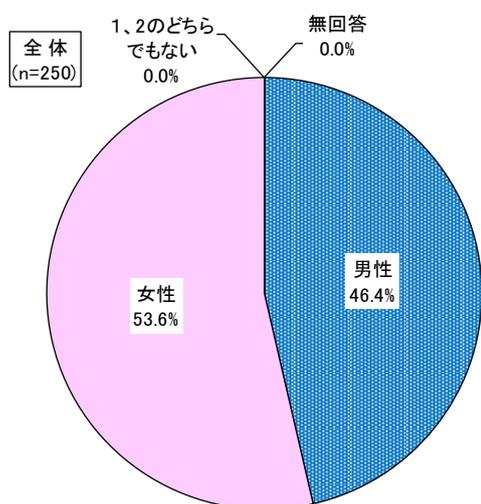
#### ◇ 本報告書の利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は、百分比（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。そのため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。
2. 図表中の「n（number of cases の略）」とは、回答者総数（該当者質問では該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
3. 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。
4. 回答数が極端に少ない（概ねに 10 以下の）属性については分析対象外とした。

## IV 職員アンケート調査結果

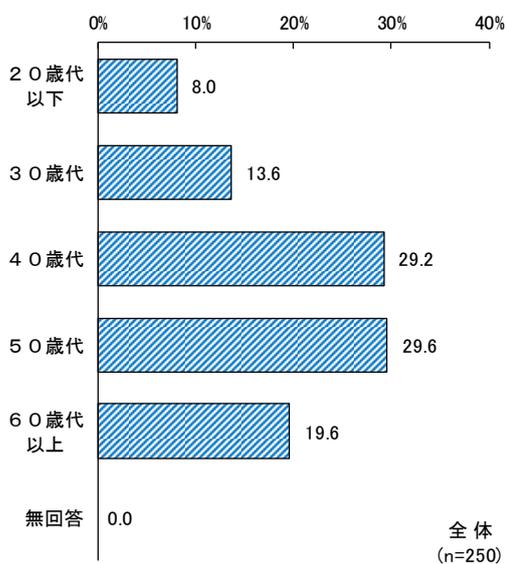
### 1 回答者の属性

(1) あなたの性別をお知らせください。(○は1つだけ)



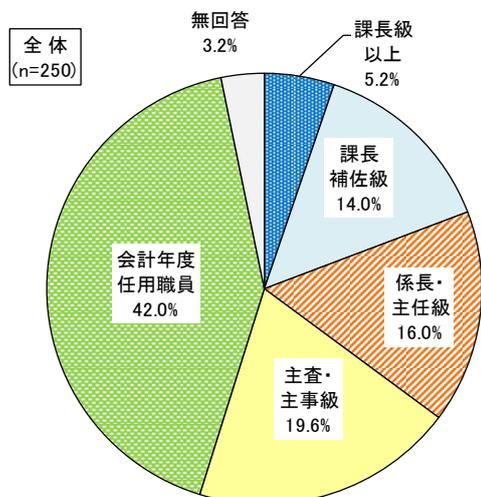
性別	
回答者総数	100.0% (250人)
男性	46.4% (116人)
女性	53.6% (134人)
1、2のどちらでもない	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)

(2) あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)



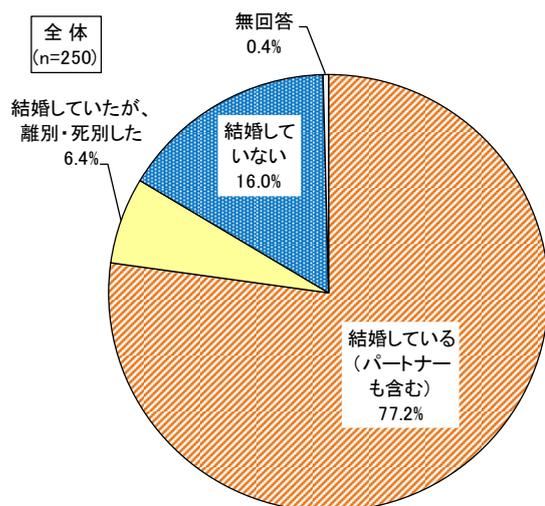
年齢別	
回答者総数	100.0% (250人)
20歳代以下	8.0% (20人)
30歳代	13.6% (34人)
40歳代	29.2% (73人)
50歳代	29.6% (74人)
60歳代以上	19.6% (49人)
無回答	0.0% (0人)

(3) あなたの職位はどれですか。(○は1つだけ)



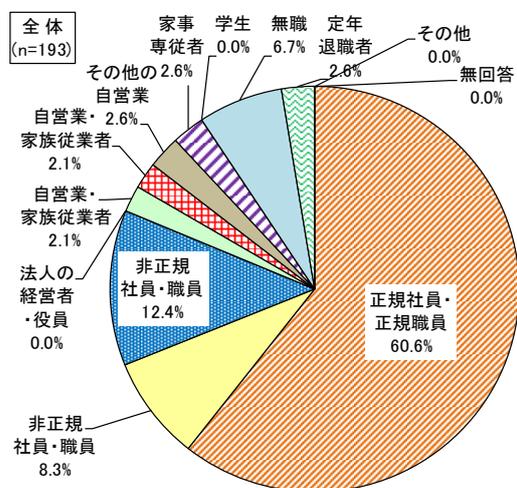
職位別		
回答者総数	100.0%	(250人)
課長級以上	5.2%	(13人)
課長補佐級	14.0%	(35人)
係長・主任級	16.0%	(40人)
主査・主事級	19.6%	(49人)
会計年度任用職員	42.0%	(105人)
無回答	3.2%	(8人)

(4) あなたは現在結婚されていますか。(○は1つだけ)



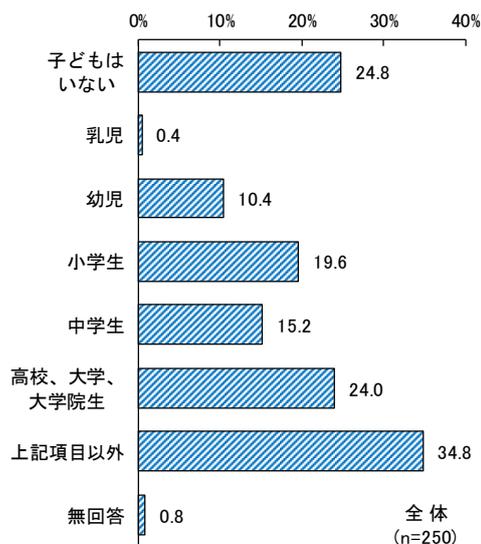
婚姻状況		
回答者総数	100.0%	(250人)
結婚している (パートナーも含む)	77.2%	(193人)
結婚していたが、離別・死別した	6.4%	(16人)
結婚していない	16.0%	(40人)
無回答	0.4%	(1人)

(5) [(4) で「1. 結婚している (パートナーも含む)」と答え方にお伺いします]  
 あなたの配偶者・パートナーの就労状況は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)



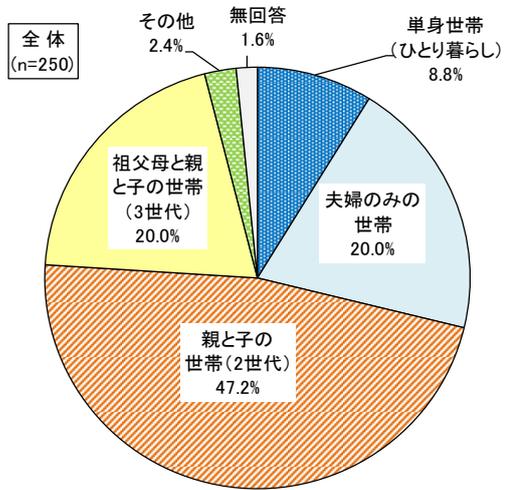
回答者総数	割合	人数
正規社員・正規職員 (会社員・公務員・教員・団体職員など)	60.6%	117人
非正規社員・職員 (派遣社員・契約社員・臨時職員)	8.3%	16人
非正規社員・職員 (パート・アルバイト)	12.4%	24人
法人の経営者・役員	0.0%	0人
自営業・家族従業者 (農林漁業)	2.1%	4人
自営業・家族従業者 (商業・工業・サービス業など)	2.1%	4人
その他の自営業	2.6%	5人
家事専従者 (主婦・主夫)	2.6%	5人
学生	0.0%	0人
無職	6.7%	13人
定年退職者	2.6%	5人
その他	0.0%	0人
無回答	0.0%	0人

(6) あなたにはお子さんはいますか。(○はあてはまるものすべて)



回答者総数	割合	人数
子どもはいない	24.8%	62人
乳児 (1歳未満)	0.4%	1人
幼児 (1歳以上～小学校就学前)	10.4%	26人
小学生	19.6%	49人
中学生	15.2%	38人
高校、大学、大学院生 (高専、短大、専門学校生を含む)	24.0%	60人
上記項目以外 (学校は卒業した、既に働いている、結婚した等)	34.8%	87人
無回答	0.8%	2人

(7) あなたのご家庭の構成（同居の家族のみ）は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

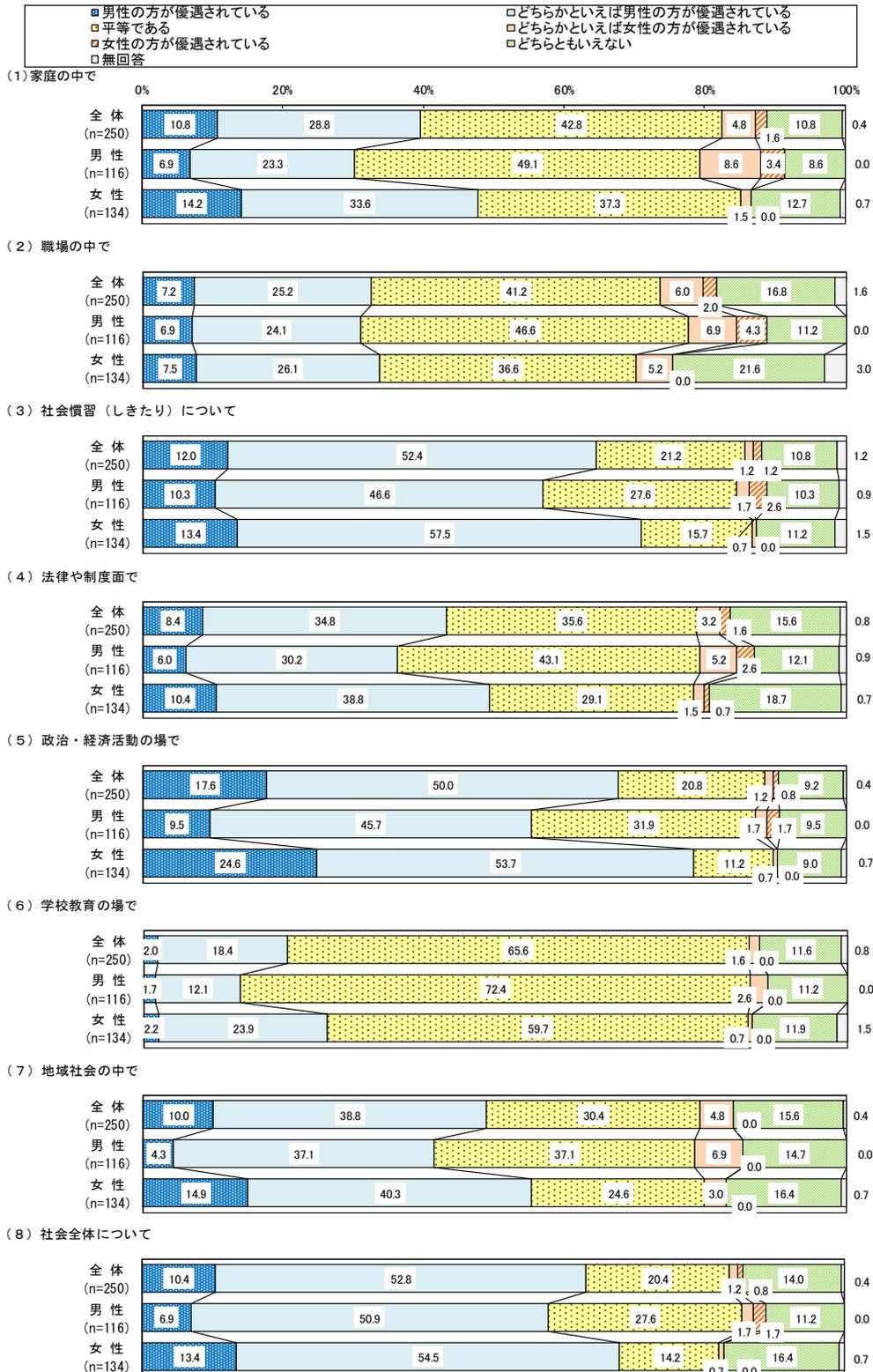


回答者総数	割合 (%)	人数
回答者総数	100.0%	(250人)
単身世帯(ひとり暮らし)	8.8%	(22人)
夫婦のみの世帯	20.0%	(50人)
親と子の世帯(2世代)	47.2%	(118人)
祖父母と親と子の世帯(3世代)	20.0%	(50人)
その他	2.4%	(6人)
無回答	1.6%	(4人)

## 2 男女共同参画について

### (1) 男女の地位の平等について

問2 あなたは、(1)～(8)のような場面における男女の地位の平等について、どのように思いますか。それぞれ1つずつお選びください。



## <全体結果>

男女の地位の平等感について8つの項目で調査した。

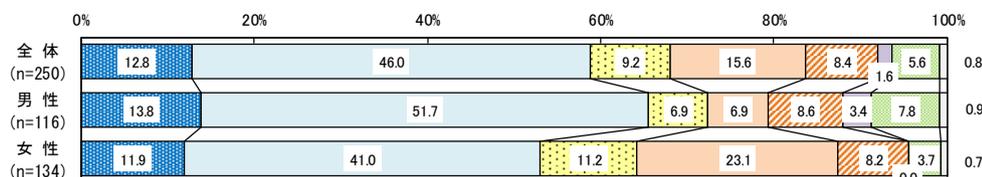
「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』計の割合は、【(5) 政治・経済活動の場で】、【(3) 社会慣習(しきたり)について】、【(8) 社会全体について】が6割台、【(7) 地域社会の中で】、【(4) 法律や制度面で】が4割台、【(1) 家庭の中で】、【(2) 職場の中で】が3割台で続いている。

一方、「平等である」と感じている項目は、【(6) 学校教育の場で】が6割強で最も高く、『男性が優遇されている』計の割合を大きく上回っている。

## (2) 男女が社会のあらゆる分野に参画していくために最も重要なこと

問2 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。1つだけお選びください。

- 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
- 男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会慣習(しきたり)を改めること
- 女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得したりするなど、積極的に力の向上をはかること
- 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること
- 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- その他
- わからない
- 無回答



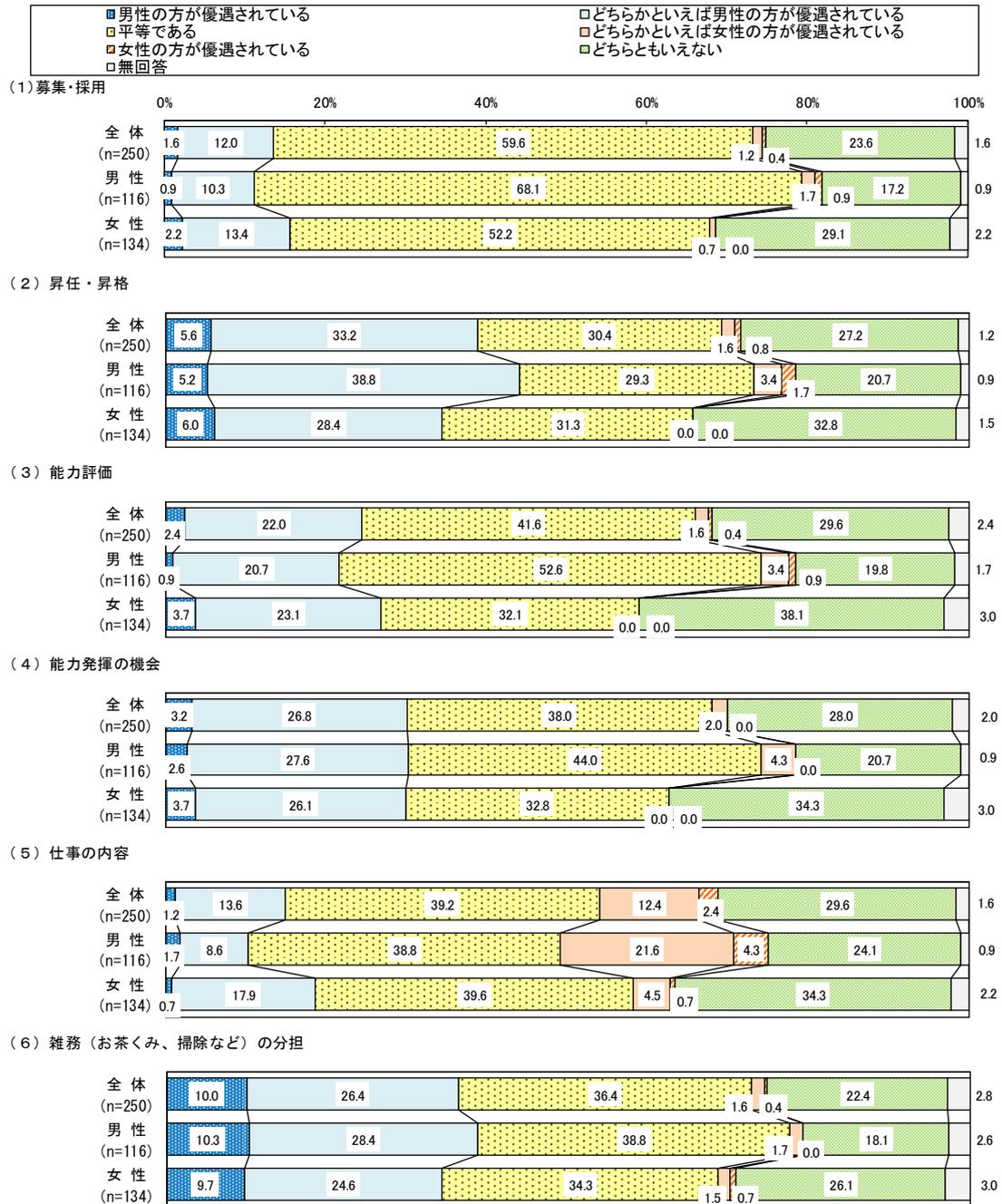
## <全体結果>

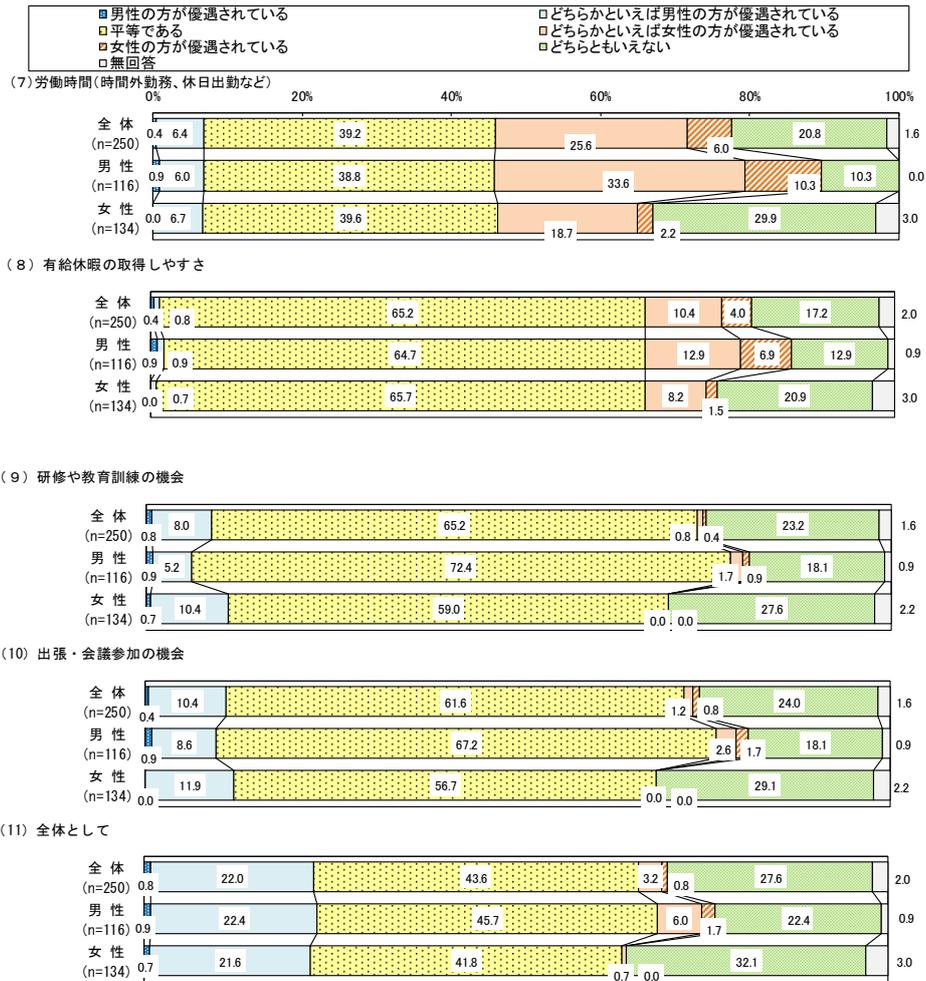
今後、男女が社会のあらゆる分野に参画していくためには、最も重要なことは「男女にかかわる、さまざまな偏見、固定的な社会慣習(しきたり)を改めること」の割合が最も高く、5割弱を占めている。「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」が1割台となっている。

### 3 男女の職業生活に対する考え方について

#### (1) 職場における男女間の格差

問3 あなたは、加茂市役所において、次の各事項で男女の差はどのようになっていると思いますか。(1)～(11)についてあなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつお選びください。





## <全体結果>

職場における男女間の格差について11つの項目で調査した。

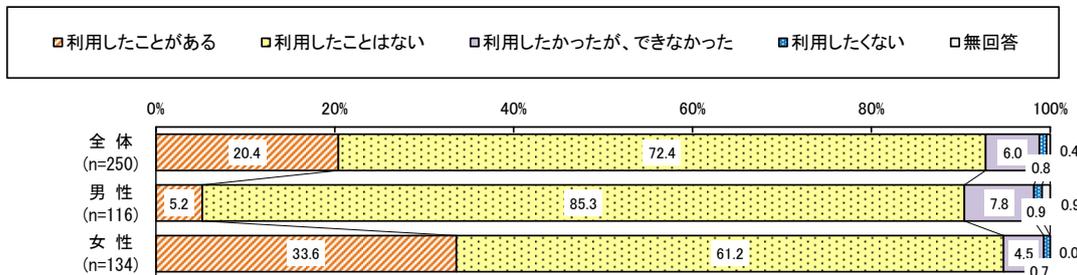
「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』計の割合は、【(2) 昇任・昇格】、【(6) 雑務(お茶くみ、掃除など)の分担】、【(4) 能力発揮の機会】が3割台となっている。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている』計の割合は、【(7) 労働時間(時間外勤務、休日出勤など)】が3割台、【(5) 仕事の内容】、【(8) 有給休暇の取得しやすさ】が1割台、『男性が優遇されている』計の割合より高くなっている。

一方、「平等である」と感じている項目は、【(8) 有給休暇の取得しやすさ】、【(9) 研修や教育訓練の機会】、【(10) 出張・会議参加の機会】が6割台、【(1) 募集・採用】が約6割、【(11) 全体として】、【(3) 能力評価】が4割台で高く、『男性が優遇されている』計の割合を大きく上回っている。

## (2) 育児休業の取得について

問4 あなたは、これまでに育児休業制度を利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。1つだけお選びください。

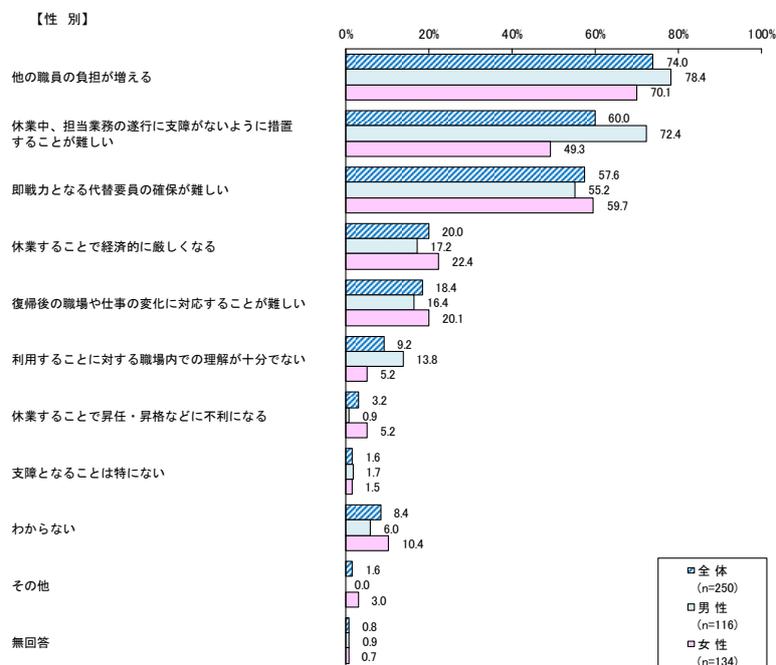


### <全体結果>

育児休業の取得については、「利用したことはない」の割合が最も高く、7割強を占めている。「利用したことがある」の割合が約1割となっている。

## (3) 育児休業を利用する上で支障となること

問5 あなたは、職場において育児休業制度を利用しようとする上で、支障となることはどのようなことだと思いますか。次の中から3つお選びください。



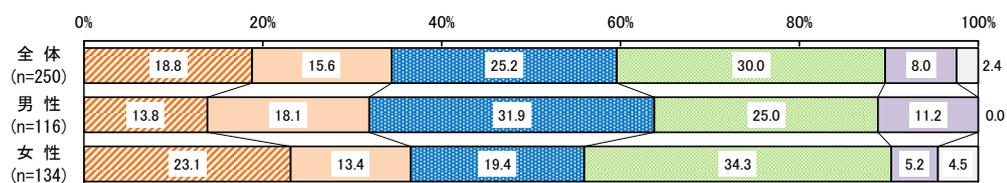
### <全体結果>

育児休業を利用する上で支障となることは、「他の職員の負担が増える」の割合が最も高く、7割強を占めている。次いで、「休業中、担当業務の遂行に支障がないように措置することが難しい」が6割、「即戦力となる代替要員の確保が難しい」が6割弱となっている。

#### (4) 現状についての考え方

問6 令和4年4月1日現在、一般行政職の女性の採用割合は31.9%となっており、加茂市職員の管理職(課長補佐以上)における女性比率は40.7%となっています。あなたは、現状についてどのように思いますか。1つだけお選びください。

- 現状で十分である
- 現状では不十分だが、やむを得ない
- 現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用をすすめるべきである
- わからない
- その他
- 無回答



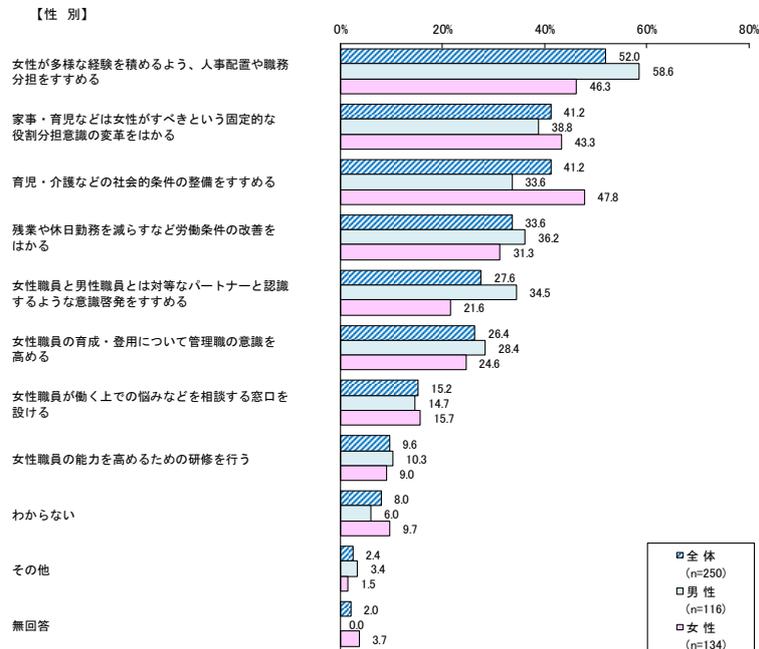
#### <全体結果>

現状についての考え方は、「現状では不十分であり、もっと職域拡大・登用をすすめるべきである」の割合が高く、四分の一を占めている。「現状で十分である」、「現状では不十分だが、やむを得ない」が2割弱となっている。

一方、「わからない」が3割となっている。

## (5) 女性の職域拡大・登用をすすめるために重要なこと

問7 あなたは、加茂市役所において、女性の職域拡大・登用をすすめるためにはどのようにしたらよいと思いますか。次の中から3つお選びください。

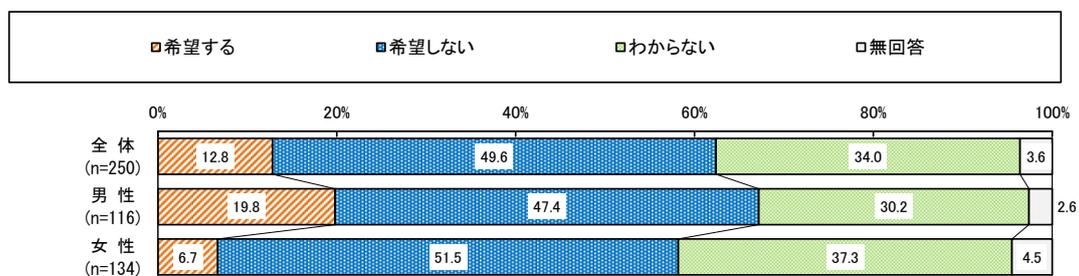


### <全体結果>

女性の職域拡大・登用をすすめるために、「女性が多様な経験を積めるよう、人事配置や職務分担をすすめる」の割合が最も高く、5割強を占めている。次いで、「家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の変革をはかる」、「育児・介護などの社会的条件の整備をすすめる」が4割台、「残業や休日勤務を減らすなど労働条件の改善をはかる」が3割強となっている。

## (6) 管理職への昇格・昇任について

問8 あなたは管理職への昇格・昇任を希望しますか。1つだけお選びください。



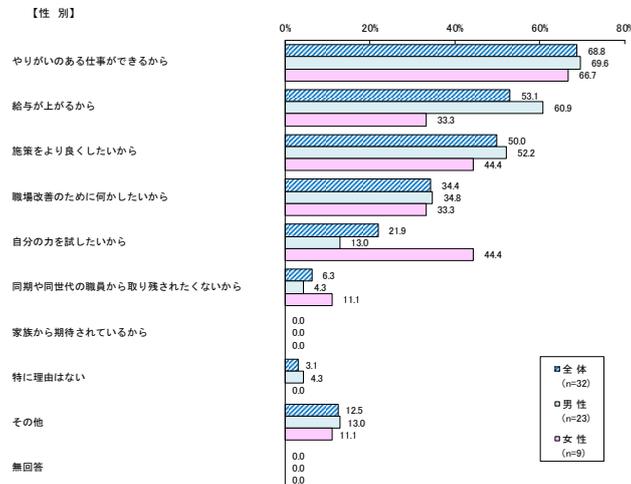
### <全体結果>

管理職への昇格・昇任を「希望しない」の割合が高く、約5割を占めている。「希望する」の割合が1割強となっている。

一方、「わからない」が3割強となっている。

## (7) 管理職への昇格・昇任を希望する理由

問9 管理職への昇格・昇任を希望する理由は何ですか。あてはまるものを3つまでお選びください。

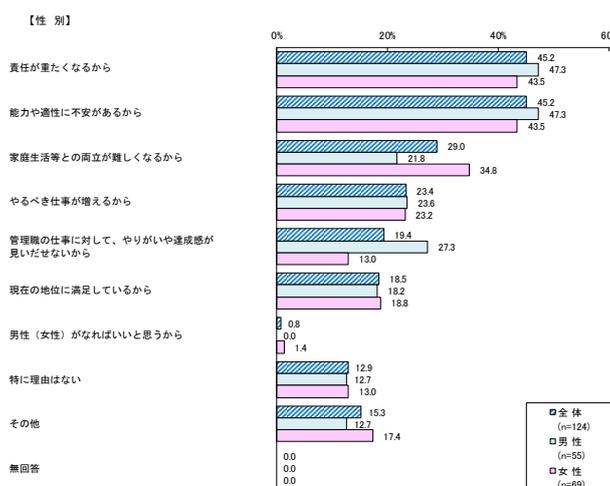


### <全体結果>

管理職への昇格・昇任を希望する理由は、「やりがいのある仕事ができるから」の割合が最も高く、7割弱を占めている。次いで、「給与が上がるから」、「施策をより良くしたいから」が5割台、「職場改善のために何かしたいから」が3割台となっている。

## (8) 管理職への昇格・昇任を希望しない理由

問10 管理職への昇格・昇任を希望しない理由は何ですか。あてはまるものを3つまでお選びください。



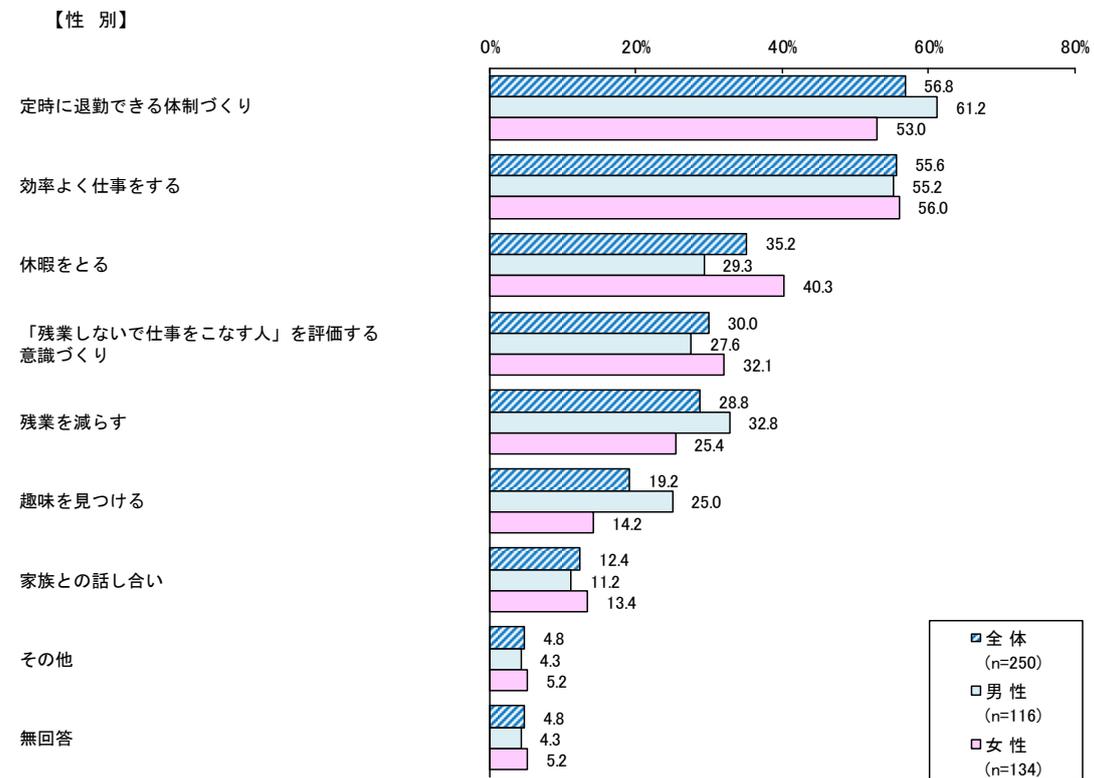
### <全体結果>

管理職への昇格・昇任を希望しない理由は、「責任が重くなるから」、「能力や適性に不安があるから」の割合が最も高く、4割強を占めている。次いで、「家庭生活等との両立が難しくなるから」、「やるべき仕事が増えるから」が2割台となっている。

## 4 ワーク・ライフ・バランスについて

### (1) ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと

問 11 ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なことは何だと思えますか。  
次の中からいくつでもお選びください。



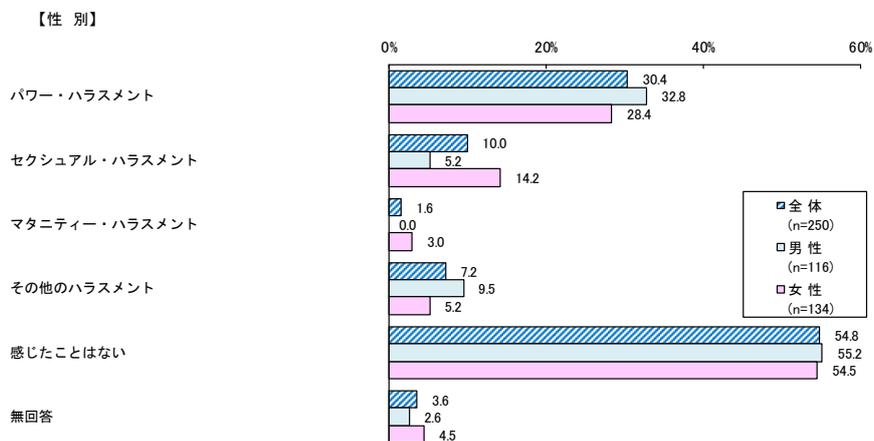
#### <全体結果>

ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なことは、「定時に退勤できる体制づくり」、  
「効率よく仕事をする」の割合が高く、5割強を占めている。次いで、「休暇をとる」、「『残業しないで仕事をこなす人』を評価する意識づくり」が3割台となっている。

## 5 人権について

### (1) 職場でのハラスメントを受けた経験の有無

問 12 あなたは、職場でのハラスメントについて、自分やまわりの人が経験したことがありますか。次の中からいくつでもお選びください。

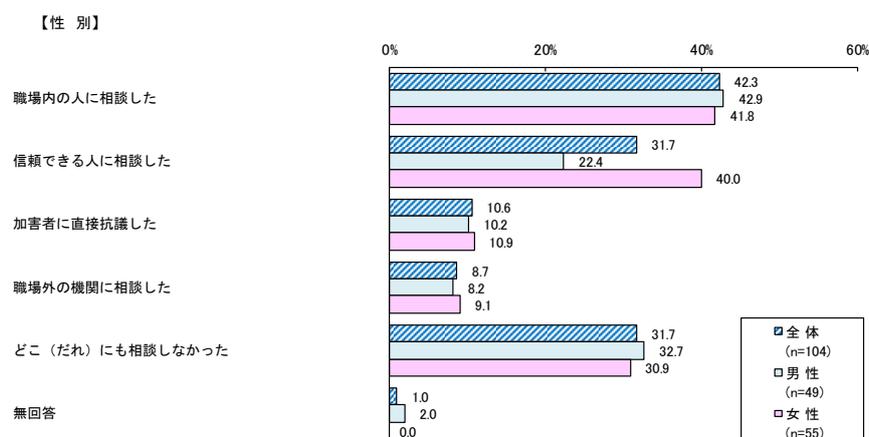


#### <全体結果>

職場でのハラスメントを「感じたことがない」の割合が最も高く、5割強を占めている。次いで、「パワー・ハラスメント」が約3割、「セクシュアル・ハラスメント」が1割となっている。

### (2) ハラスメントを受けた時の対処法

問 13 あなたは、ハラスメントに対してどのような対応をしましたか。あてはまるものをいくつでもお選びください。



#### <全体結果>

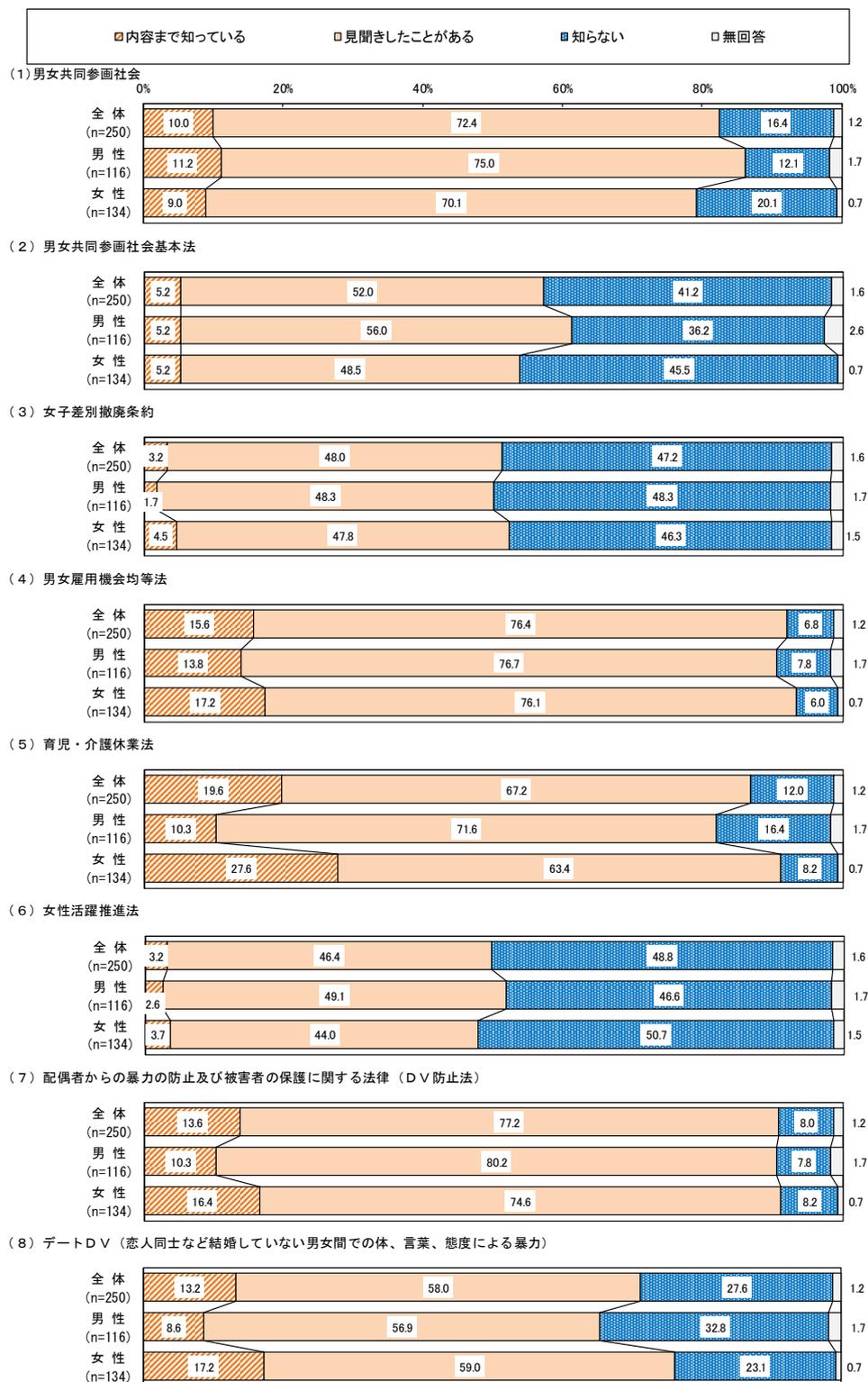
「職場内の人に相談した」の割合が最も高く、4割強を占めている。次いで、「信頼できる人に相談した」が3割強、「加害者に直接抗議した」が約1割となっている。

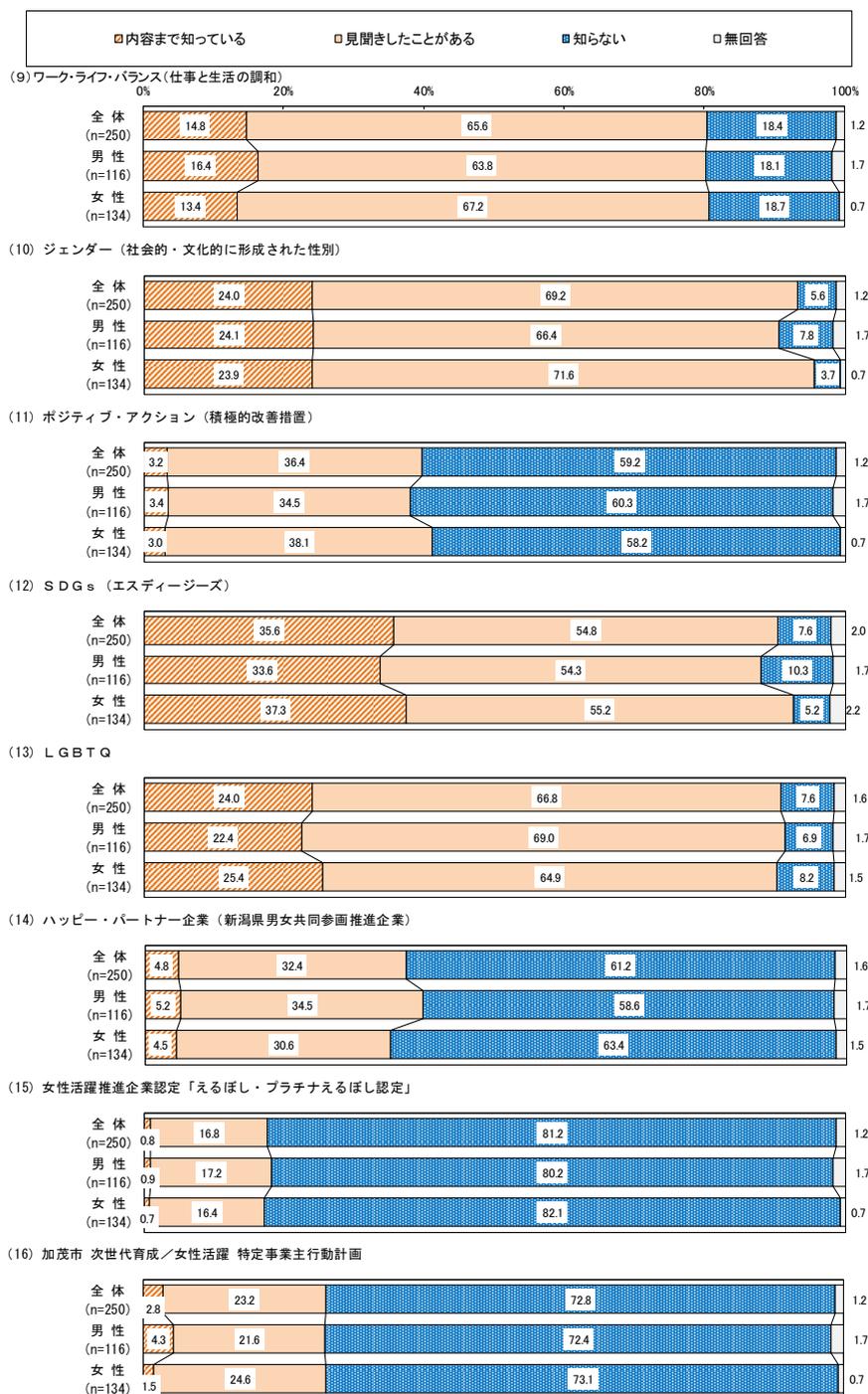
一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が3割強となっている。

## 6 男女共同参画に関する施策などについて

### (1) 法律や制度の認知度

問 14 あなたは、次の男女共同参画に関する事項を、どの程度ご存知ですか。  
それぞれ1つずつお選びください。





## <全体結果>

法律や制度の認知度について16項目で調査した。

「内容まで知っている」では、「SDGs(エスディーゼーズ)」が3割強で最も高くなっている。

「見聞きしたことがある」では、【(7) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)】、【(4) 男女雇用機会均等法】、【(1) 男女共同参画社会】が7割台で高くなっている。

「知らない」では、【(15) 女性活躍推進企業認定「えるぼし・プラチナえるぼし認定」】が8割強で最も高くなっている。